

# App-Tek

## OdaStat-G ソフトウェアマニュアル

COPYRIGHT 2013

本マニュアルは OdaStat-G ソフトウェアの使用に関する物です。  
OdaStat-G ソフトウェアの使用以外の目的での本マニュアルの使用は保障外となります。  
本マニュアル外での操作による破損等に関しては App-Tek インターナショナルの保障外となります。

## 1 はじめに

- 1.1 ソフトウェアのアップデートに関して
- 1.2 OdaLog で使用されるファイルに関して
  - 1.2.1 .oda
  - 1.2.2 .olg
  - 1.2.3 .mlg
  - 1.2.4 .csv
  - 1.2.5 .cfg
  - 1.2.6 .jpg
  - 1.2.7 .log

## 2 ソフトウェアのインストール

- 2.1 インストール (Windows XP / Vista / Windows7)
- 2.2 ソフトウェアの起動

## 3 IrDA 赤外線装置について

## 4 ソフトウェアの使用

- 4.1 スタートページ
- 4.2 信頼性の高い赤外線通信のために
- 4.3 赤外線またはFTPを使用したOdaLogとの通信
  - 4.3.1 OdaLog TRx FTPを使用したインターネット通信
  - 4.3.2 Log. tx t の閲覧ボタンとオンライン設定ボタン
  - 4.3.3 OdaLog L2 RTxの赤外線通信について
  - 4.3.4 OdaLog タイプ1~5の通信について
- 4.4 OdaLog RTxの位置情報の取得
- 4.5 OdaLogの日付/時間の設定
- 4.6 ユーザーによる本体設定
  - 4.6.1 OdaLog L2 / TRx の本体設定
  - 4.6.2 OdaLog RTx の本体設定
  - 4.6.3 OdaLog RTx FTP 設定ファイル (. fcf) を利用した遠隔地からの設定
  - 4.6.4 OdaLog RTx 設定ファイルのバックアップの読み込み
- 4.7 赤外線通信装置を使用したログデータのダウンロード
- 4.8 セッションの選択
- 4.9 OdaLo g のメモリークリア
- 4.10 保存された過去のログデータの閲覧
- 4.11 ログデータの書き出し ( CS V 形式、JPEG 画像形式)

## 5 グラフ操作

- 5.1 ログデータの閲覧
- 5.2 グラフ画面のツール
  - 5.2.1 オーバーレイモード
  - 5.2.2 セパレートモード (複数のガスデータがある場合のみ)
  - 5.2.3 表にして表示
  - 5.2.4 ズーム機能
    - 5.2.1 瞬間的な数値の表示 (特定のログタイプでのみ有効)
    - 5.2.2 特定のガスの STEL / TWA 数値の表示 (特定のログタイプでのみ有効)
    - 5.2.3 短時間ばく露限界 (STEL) の表示
    - 5.2.4 時間平均加重 (TWA) の表示
    - 5.2.5 ズーム機能

- 5.3 グラフ表示のオプション
- 5.4 グラフの形式
- 5.5 オーバーレイ表示 (タイプ I や IV などのログタイプ機種のみ)
- 5.6 ドラッグアンドドロップを使用したオーバーレイ
- 5.7 コピーアンドペーストを使用したオーバーレイ
  - 5.7.1 データの貼り付け
  - 5.7.2 絶対時間に合わせる
  - 5.7.3 相対時間に合わせる
  - 5.7.4 異なるタイプの OdaLog のデータ
- 5.8 ラベルの編集
- 5.9 オーバーレイグラフ上でのデータの表示 / 非表示
- 5.10 イベントのラベルの表示 / 非表示
- 5.11 ラベルの表示 / 非表示
- 5.12 グラフの印刷
- 5.13 セッション情報

## 6 ソフトウェアの環境設定

- 6.1 全般設定 (Miscellaneous)
- 6.2 通信設定 (Communications)
- 6.3 ファイル (Files)
- 6.4 言語設定 (Select Language)

## 7 トラブルシューティング 赤外線通信による OdaLog の接続時

## 8 FTP を使用した OdaLog RT x との接続

# 1 はじめに

App-Tek インターナショナルのOdaLog ソフトウェアをご利用いただきありがとうございます。

本ソフトウェアを使用することで、OdaLog シリーズの設定をシンプルな操作で行えます。ご使用に当たっては、マイクロソフト社の Windows XP/Vista/Windows 7(32 bit) の操作の知識が必要になります。また本ソフトウェアをご利用いただくには、2 ボタンのマウスをご準備ください。

## 1.1 ソフトウェアのアップデートに関して

製品はエラーのチェック、動作のテストを十分に行っておりますが、OS やサービスパックのバージョンなどにより本ソフトウェアとお使いのパソコン間でエラーが起こる場合がございます。OdaStat-G ソフトウェアは上記 OS との互換性を保つために随時更新を行っておりますので、本ソフトウェアをインストール後に、更新できるアップデートが無いかをご確認いただくことを推奨いたします。

ソフトウェアのアップデートは [www.odalog.com](http://www.odalog.com) よりダウンロードできます。また新しいアップデートが無いか定期的にご確認ください。上記のリンクとご使用の OdaStat-G ソフトウェアのバージョンは、本ソフトウェア内の「Help (ヘルプ)」メニュー内「About OdaStat (OdaStat について)」にも記載されております。

OdaStat-G ソフトウェアは 32bit の Windows XP / Vista / Windows7 にて動作確認を行っております。またソフトウェア自体は 64bit の Windows XP / Vista / Windows7 でも動作は行えます。

## 1.2 OdaLogで使用されるファイルに関して

OdaLog ソフトウェアでは、下記のファイルを作成、使用します。

### 1.2.1 .oda

拡張子.oda ファイル(例: Sample.oda)は本機から送られ、OdaStat のみで読み込める raw データファイルです。このファイルは OdaStat-G ソフトウェアにて開くことができます。

### 1.2.2 .olg

拡張子.olg ファイル(例: Sample\_1.olg)は.oda ファイルからの、バイナリ形式のログ抽出データです(ログセッション1回につき1ファイル)。OdaStat ソフトウェアは、このファイルにユーザーの使用したグラフやその他の詳細を記録します。このファイルは OdaStat-G ソフトウェアにて開くことができます。

### 1.2.3 .mlg(ログデータ修正ファイル)

ログファイルに変更や修正が行われた際は、ログファイルは mlg ファイルもしくは追加修正ログファイルとして保存されます。この形式で保存されている場合、保存されているログデータはなんらかの変更が加えられたデータであり、本来のデータではありません。

### 1.2.4 .csv (カンマ区切りファイル)

OdaStat-G ソフトウェアはデータを CSV 形式で書き出すことができます。このファイルはエクセルなどの表計算ソフトで開くことができます。

### 1.2.5 .cfg

拡張子.cfg ファイルは OdaStat-G ソフトウェアの構成を保存するファイルです。このファイルは起動時に読み込まれます。

### 1.2.6 .jpg

OdaStat-G ソフトウェアはデータを JPEG 画像形式で書き出すことができます。このファイルは画像表示ソフトもしくは画像編集ソフトで開くことができます。

### 1.2.7 .log

拡張子.log ファイルは OdaLog RTx で作成されるバイナリファイルです。このファイルは GPRS モデムを使用し FTP サーバーへ送られます。FTP サーバー内ではフォルダの中に格納され OdaStat-G ソフトウェアを使用することで、アクセス、解凍することができます。

## 2 ソフトウェアのインストール

### 2.1 インストール (Windows XP / Vista / Windows7)

注意：インストールするコンピューターには事前に「管理者」としてログインを行ってください。（32bitの Windows NT / 2000 / XP / Vista / Windows7）

1. OdaStat-G ソフトウェアの CD をパソコンの CD ドライブに挿入して下さい
2. CD が自動的に読み込まれた後、インストールメニュー画面が表示されます（図1 参照）画面が表示されたら手順5へ、表示されない場合は以下の手順3へ進んでください。

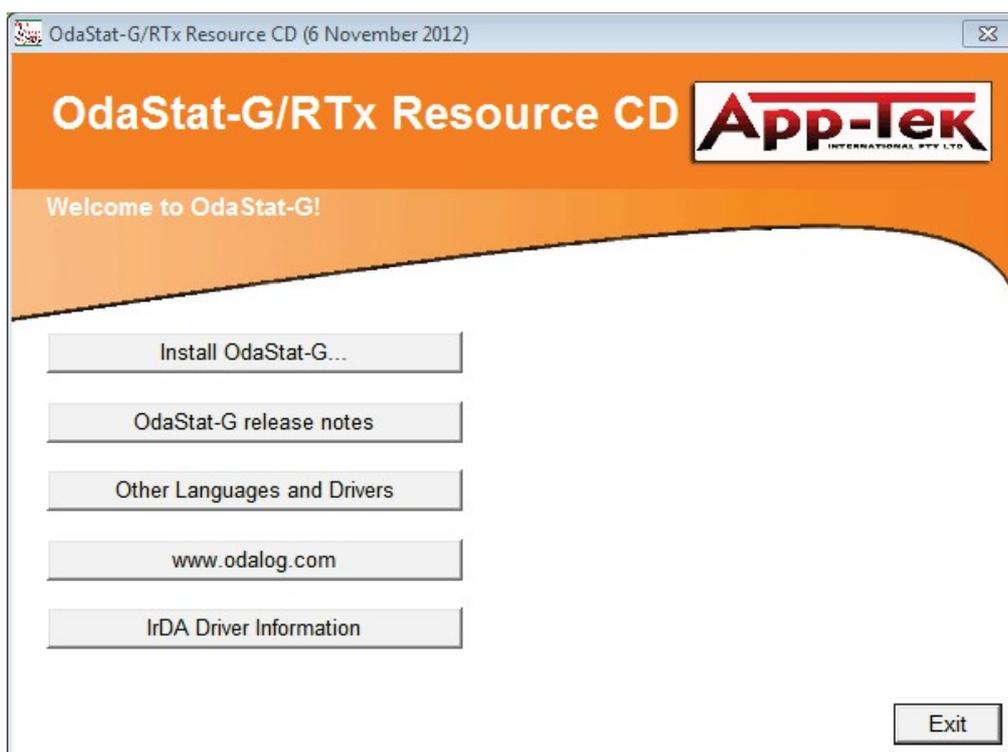


図1 インストール画面（自動表示）

3. マイコンピューター上で OdaStat-G ソフトウェアの CD を挿入した CD ドライブをダブルクリックし、内容を表示してください。
4. アイコン  (DT Auto Run) をダブルクリックしインストールメニュー画面（図1 参照）を表示させてください。
5. 「OdaStat-G のインストール (Install OdaStat-G...）」をダブルクリックしてください。setup.exe が起動しインストール作業が始まります。
6. インストール画面が表示されたら「Next」をクリックし、インストールを行ってください。

7. 利用規約をお読みいただき、同意される場合は「利用規約に同意 (I accept the terms in the license agreement)」のチェックボックスをクリックし、チェックを入れた後「Next」をクリックして下さい。
8. 保存先を選択する画面で「Next」をクリックすると本ソフトウェアは [C:¥0daStat-G](#) に保存されます (推奨)。異なる場所へ保存する際は「変更 (Change)」をクリックして、保存場所を選択して下さい。
9. インストール準備が整うと「Install」をクリックし、ソフトウェアをパソコン上にインストールして下さい。
10. インストールが完了し「InstallShield Wizard Complete (インストール完了)」画面が表示されると「終了 (Finish)」をクリックし作業を終えてください。

## 2.2 ソフトウェアの起動

インストールが完了するとソフトウェアが使用できる状態になります。ソフトウェアは以下の方法で起動することができます。

1. デスクトップ上の OdaStat-G アイコン (図 2 参照) をダブルクリックする。
2. スタートメニュー内の OdaStat-G をクリックする。
3. OdaStat データファイル (例: .oda .olg .mlg) をダブルクリックする。

注意: OdaStat-G ソフトウェアをインストールするコンピューター上にすでに「OdaStat」もしくは「OdaStat-E」がインストールされている場合、これらのソフトウェアは削除されませんが、コンピューター上の全てのデータファイル (セクション 1.2 参照) が自動的に OdaStat-G ソフトウェアに関連付けされます。これらのファイルを OdaStat-G 以外のバージョンのソフトウェアで開くには、ファイルを右クリックし「プログラムから開く」を選択後、[C:¥0daStat-E¥0daStat-E.exe](#) もしくは [C:¥0daStat-E¥0daStat-E.exe](#) を使用して下さい。



図 2 OdaStat-G アイコン

### 3 赤外線装置について

この項目では OdaLog シリーズの本体と OdaStat-G ソフトウェア間の通信装置に関して記載しています。

1. EL-LINK-IR この通信装置は OdaLog タイプ I ~ IV までの機種で使用します。この赤外線通信装置は、シリアルポートを 1 つ使用し、ドライバのインストールは不要です。

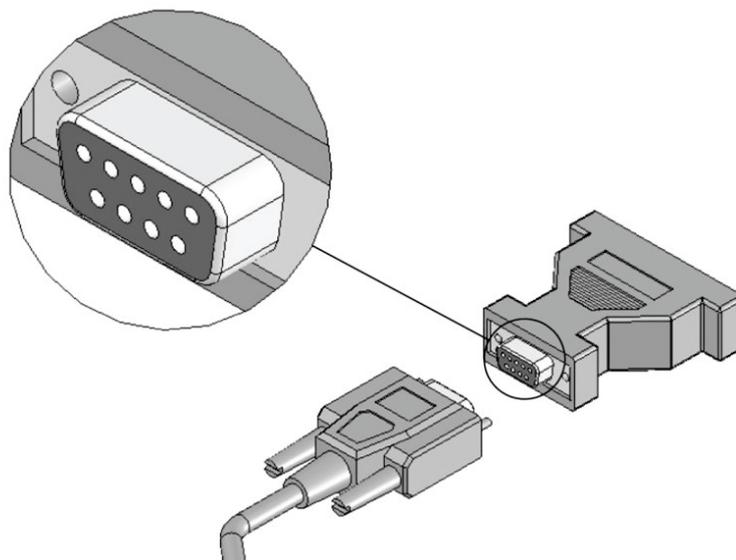


図3 シリアル接続の赤外線通信装置 (EL-LINK-IR )

2. USB-LINK-IR この通信装置は OdaLog タイプ I ~ IV までの機種で使用します。この通信装置は使用する前にドライバのインストールが必要です。パソコンへの接続には USB ポートを 1 つ使用します。

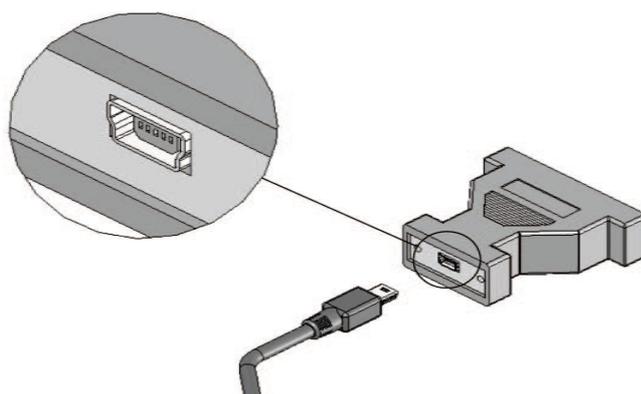


図4 USB 接続の赤外線通信装置 (USB-LINK-IR)

3. Sitecom USB-IrDA この通信装置は OdaLog L2 と RTx で使用します。この通信装置は使用する前にドライバのインストールが必要です。パソコンへの接続には USB ポートを 1 つ使用します。

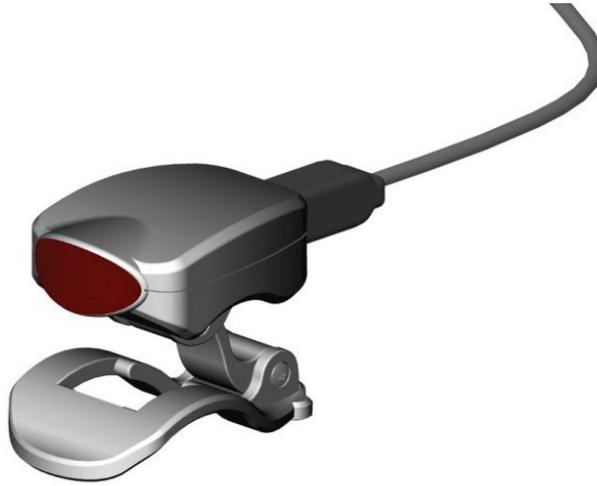


図5 USB 接続の赤外線通信装置 (Sitecom USB-IrDA)

4. Digitalk USB-IrDA この通信装置は OdaLog L2 と RTx で使用します。この通信装置は使用するには Sitecom USB-IrDA と同じドライバが必要です。パソコンへの接続には USB ポートを 1 つ使用します。



図6 USB 接続の赤外線通信装置 (Digitalk USB-IrDA)

注意：BIOS 設定で有効にされている場合、ノートパソコンに搭載されている IrDA 赤外線通信装置は OdaStat-G ソフトウェアと OdaLog L2 もしくは RTx の通信に使用することができます。なお OdaLog タイプ I ~ IV までの機種では USB-UART 変換ソフトウェアとドライバをインストールしない限り、使用することが出来ません。

### 3.1 USB 赤外線装置のドライバのインストール

注意：すでに OdaStat-E ソフトウェアをインストールしており、OdaLog L2 との接続に成功している場合、以下のインストール作業は必要ありません。

1. OdaStat-G ソフトウェアの CD をパソコンの CD ドライブに挿入して下さい
2. CD が自動的に読み込まれた後、インストールメニュー画面が表示されます（図 1 参照）画面が表示されたら手順 5 へ、表示されない場合は以下の手順 3 へ進んでください。
3. マイコンピュータ上で OdaStat-G ソフトウェアの CD を挿入した CD ドライブをダブルクリックし、内容を表示してください。
4. アイコン  をダブルクリックしインストールメニュー画面（図 1 参照）を表示させてください。
5. 「IrDA Driver Information (IrDA 赤外線ドライバ情報)」をダブルクリックし、「IrDA driver installation guide (IrDA 赤外線ドライバインストールガイド）」（図 7 参照）を開いてください。

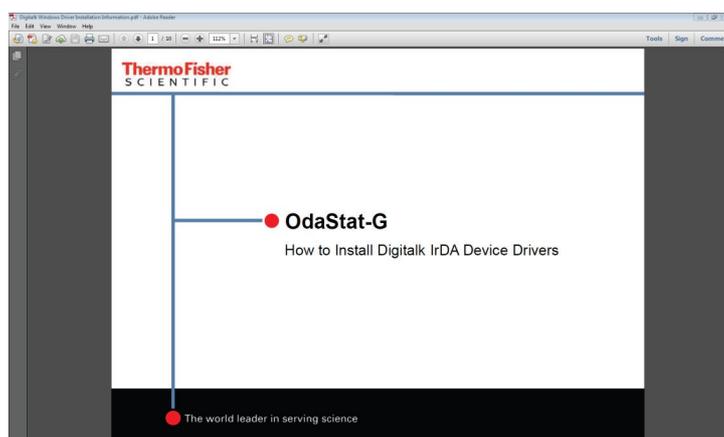


図 7 赤外線ドライバ ガイド

6. 画面の指示に従ってご使用のパソコンの OS にあったドライバをインストールしてください。
7. Windows XP へのドライバのインストールに関して、詳しくは OdaStat-G インストール CD 内の文書ファイル「OdaStat-G インストール手順 (OdaStat-G Installation Procedure)」の 7 ページ目をご参照ください。

## 4 ソフトウェアの使用

### 4.1 スタートページ

本ソフトウェアの主要な機能はスタートページから簡単にアクセスできます。スタートページへはツールバー上のボタン、もしくはメニューバーからアクセスすることができます。（図8、9参照）

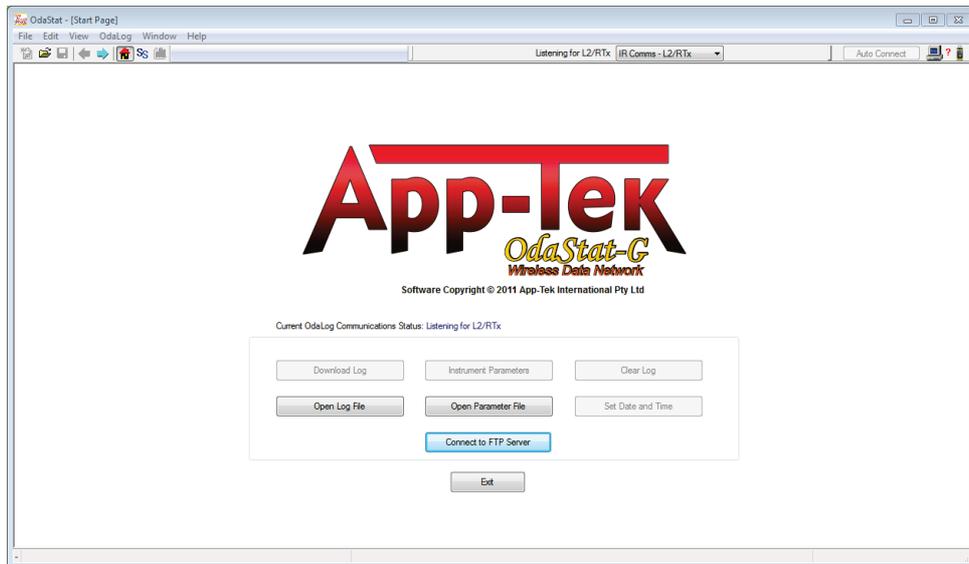


図8 OdaStat-G スタートページ

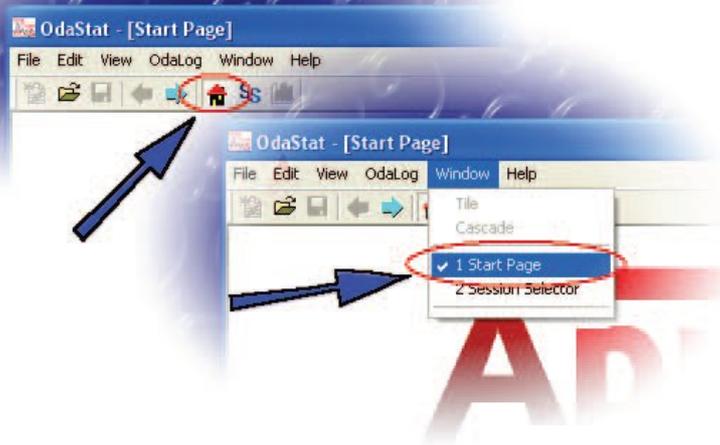


図9 スタートページへの戻り方

## 4.2 信頼性の高い IrDA 赤外線通信のために

1. 付属の IrDA 赤外線アダプターを OdaLog 本体の IrDA 赤外線ポートに、わずかに時計回りの方向に向けるようにして設置してください。
2. OdaLog の 10 メーター以内にある赤外線装置を持った他の電子機器（携帯電話、使用しないパソコン、通信端末、OdaTrak 等）を無効にしてください。誤作動の原因になります。
3. OdaLog が IrDA モードになっている間、強い光が直接本機へ当たらないようにしてください。
4. ソフトウェアを使用し、OdaLog の設定を行った場合、必ず OdaLog 本機でも設定が変更されているかを確認してください。

### 4.3 IrDA 赤外線またはFTP を使用した OdaLog との通信

OdaLog の設定の適用や、ログデータのダウンロードを行うためには、ソフトウェアと OdaLog 間での通信を確立している必要があります。

OdaLog の通信方法は機種モデルによって3つのカテゴリーに分かれます。

1. OdaLog RTx (IrDA 赤外線通信、またはFTP を用いたインターネット通信)
2. OdaLog L2 (Digitalk または Sitecome を使用した IrDA 赤外線通信)
3. OdaLog タイプ1~4 (USB-LINK-IR もしくは EL-LINK-IR を使用した赤外線通信)

使用する機種と通信タイプに関しては、それぞれのセクションを参照してください。

注意：OdaLog RTx はデータのダウンロードにも赤外線を使用できます。

#### 4.3.1 OdaLog RTx FTP を使用したインターネット通信

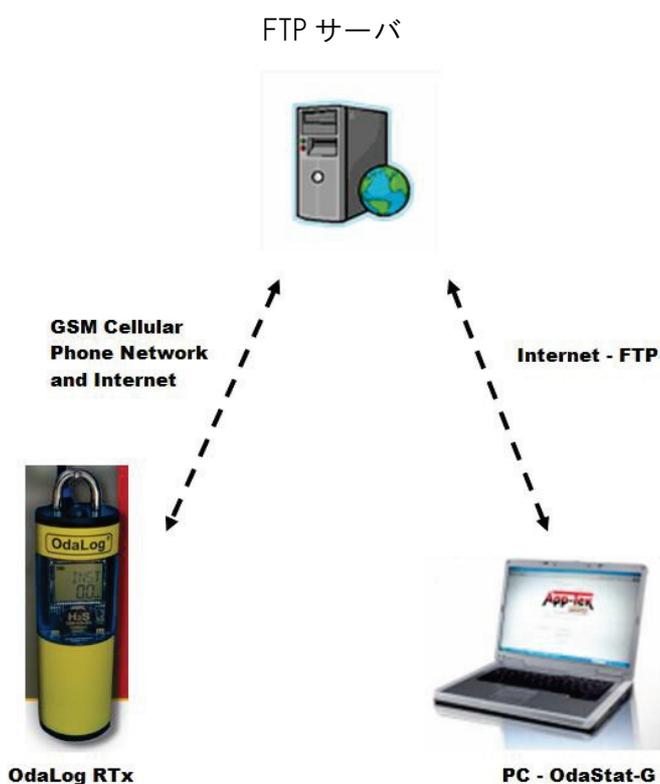


図10 OdaLog RTx と OdaStat-G の通信

OdaLog RTx は内臓の GPRS モデムを使用し、GSM もしくは電話通信ネットワークを使用して FTP サーバへデータを送信できます。データは OdaLog RTx が GPRS 機能を有効にしデータ送信を行った際にバイナリ形式 (拡張子 .log) で自動的に作成され、FTP サーバに保存されます。

OdaStat-G ソフトウェアは、OdaLog RTx が計測中に FTP サーバ上に作成した、フォルダ内のデータファイルにアクセスし、読み込むことが出来ます。フォルダはそれぞれ作成した OdaLog のシリアル番号によって分類されています。FTP サーバにアクセスしデータを閲覧するには、事前に OdaStat へ、それぞれの OdaLog に設定されているユーザーネームとパスワードの入力が必要です。

注意：データの送信、受信を行うには、OdaStat-G ソフトウェアと OdaLog RTx 本体で同じユーザーネームとパスワードを使用する必要があります。

FTP サーバへ接続するには、まず、「FTP サーバへ接続 (Connect to FTP Sereve)」ボタンをクリックして下さい。ユーザーネームとパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。

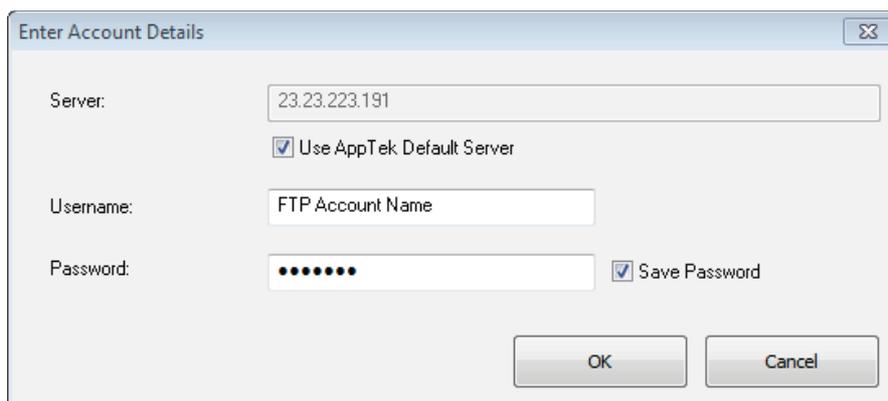


図 11 FTP アカウント 入力ダイアログボックス

パスワードとユーザーネームを入力すると、OdaLog 別にデータが格納されているファイルの一覧が表示されます。

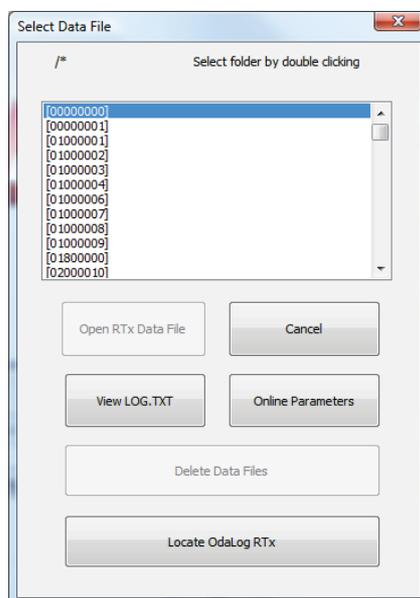


図 12 OdaLog フォルダ選択画面

フォルダは OdaLog のシリアルナンバーで分かれています。選択したいフォルダをダブルクリックして下さい。またフォルダは選択後に「選択したフォルダを削除 (Delete Selected Data File)」をクリックすることで FTP サーバ上から削除することが出来ます。

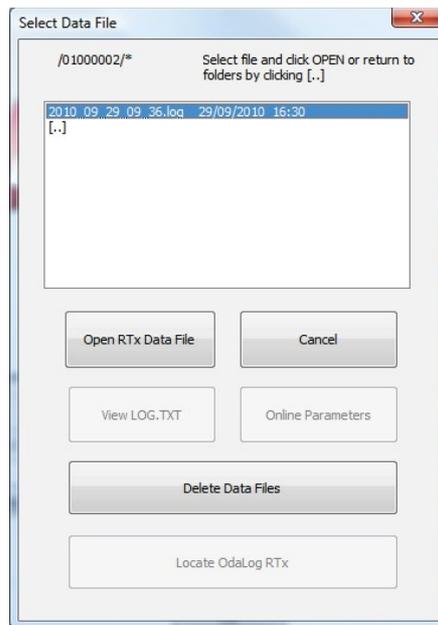


図13 データセレクト画面

フォルダをダブルクリックすると、フォルダ内のファイルとそのファイルの最終更新の日付/時間がリスト形式で表示されます。これらのファイルはOdaLog RTxによって作成されています。「最終更新日 (last date modified)」は直近のOdaLogからのデータ転送の日付/時間をあらわしています。ファイルを選択するにはファイル名をクリックし、色が変わったら「OK」をクリックして下さい。

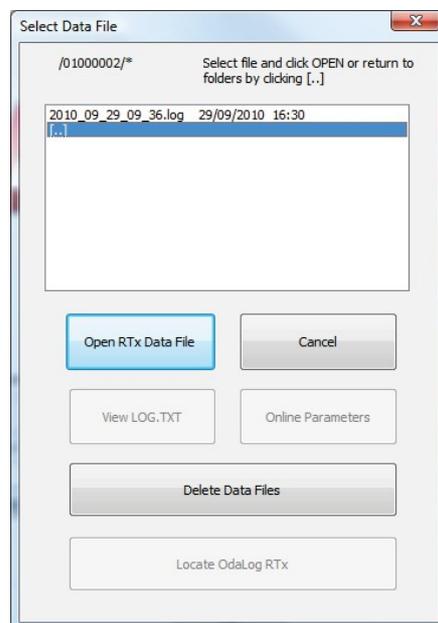


図14 親フォルダへ戻る [..]

フォルダのリストへ戻るには [..] をダブルクリックして下さい。

選択したデータのFTPサーバからフォルダ（C:\¥0daStat-G¥temp）への転送が始まるとダイアログボックスが表示されます。

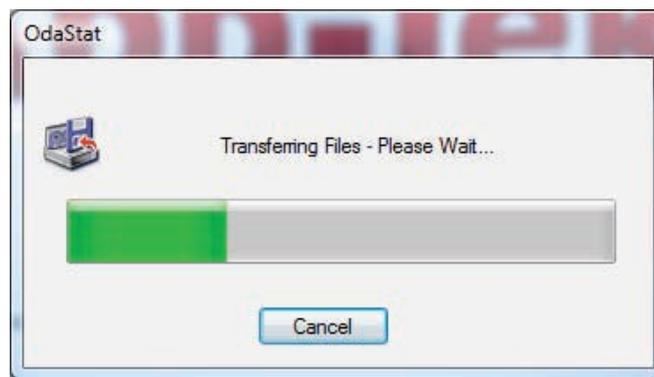


図 15 ファイル転送画面

転送が終了すると、OdaLog は自動的に内容をグラフで表示します。またデータをフォルダ（C:\¥0daStat-G¥odafiles）内へ ODA ファイルとして保存します。保存されたデータは OdaStat-G ソフトウェアを使用することで、表の作成、書き出し、修正等を行うことができます。

#### 4.3.2 Log.txt の閲覧 (View Log.txt) ボタンとオンライン設定 (Online parameters) ボタン

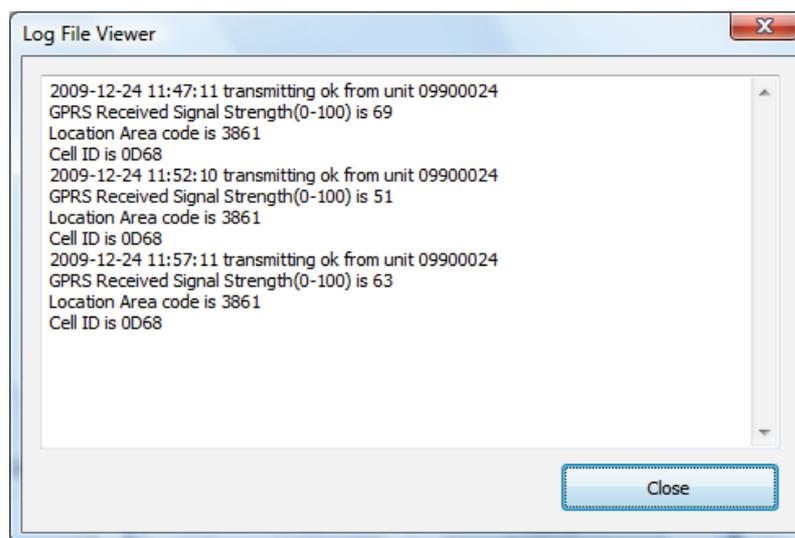


図 16 ログファイルの閲覧 (Log.txt)

Log.txt の閲覧 (View Log.txt) ボタンを使用すると、OdaLog RTx のデータ転送に関する情報が記録されたテキストファイルをダウンロードし、表示することが出来ます。また計測中のイベントやエラーに関する情報も表示されます。

オンライン設定 (Online Parameters) ボタンを使用すると、選択された OdaLog のログ間隔、データ転送間隔、サイト ID などの情報を遠隔で編集できる画面が開きます。オンライン設定について詳しくはセクション 4.6.3 を参照してください。

#### 4. 3. 3 OdaLog L2、RTx の赤外線通信について

OdaStat-G ソフトウェアではデータのダウンロード、機器設定の変更などを付属の赤外線通信装置、もしくは IrDA 赤外線通信装置によって行うことができます。

OdaLog L2、RTx との赤外線通信を行う前に、USB 接続の IrDA 赤外線通信装置 (USB-IrDA) のドライバをお使いのパソコンへインストールしてください。まだドライバのインストールがお済みで無い場合は、OdaStat-G インストール CD 内の文書ファイル、OdaStat-G インストール手順 (OdaStat-G Installation Procedure) の 7 ページを参照してください。ソフトウェア上の接続機器バー (Communications Link Bar) が OdaLog L2/RTx になっていることを確認してください。(図 17 参照)



図 17 接続機器の選択 (L2/RTx)

OdaLog を赤外線モード (IR-DA) にしてください (「INST 画面」からボタンを押し続け「IrDA」と表示されたら離してください)。赤外線モードになったら、IrDA 赤外線通信装置 (USB-IrDA) の前に設置してください。

OdaLog は自動的にソフトウェアへ接続を行います。ソフトウェア上のスタートページ内、通信ステータス (App-Tek のロゴの下) に「L2/RTx in range」と一度表示され、その後、型番とシリアルナンバーが表示されます。(図 18 参照)



図 18 OdaLog L2/RTx への接続

接続を解除するには、接続機器バー (Communications Link Bar) 上の「切断 (Disconnect)」ボタンを押してください。

#### 4. 3. 4 OdaLog タイプ 1~5 の通信について

まず赤外線通信機器がパソコンへ接続されていることを確認してください。また、ソフトウェア上の接続機器バー (Communications Link Bar) が OdaLog Type I-IV になっていることを確認してください。(図 19 参照)

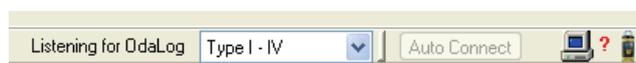


図 19 接続機器の選択 (I-IV)

本体を IR-DC モードにしてください。(IR-DC モードへの仕方は機器のマニュアルを参照してください。)

赤外線モードになったら、赤外線通信装置の前に設置してください。

数秒後に自動的にソフトウェアへの接続を行います。

接続を解除するには、接続機器バー（Communications Link Bar）上の「切断（Disconnect）」ボタンを押してください。

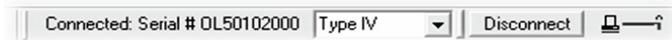


図 20 OdaLog の接続（タイプ I-IV）

数秒待っても接続されない場合、通信ポートを変更してください。

通信ポートを変更するには、ドロップダウンメニューを開き「設定（Preferences）」をクリックして下さい。「通信タブ（Communications tab）」をクリックし、「自動検出（Auto Detect）」を選択してください。OdaLog 本体が IRDC モードになっているかの確認が出来ますので、IRDC モードになっている事を確認し「OK」をクリックして下さい。

※詳しくは接続トラブルシューティング参照

#### 4.4 OdaLog RTx の位置情報の取得

OdaLog RTx には GPS モジュールを追加で搭載することが出来ます。FTP サーバ上の OdaLog RTx のフォルダを選択した際（図 12 参照）、「OdaLog RTx の位置情報の取得（Locat OdaLog RTx）」ボタンが有効になっています。このボタンをクリックすると、選択した OdaLog の GPS 座標がダイアログボックスで表示されます。選択された OdaLog に GPS モジュールが搭載されていない場合はエラーメッセージが表示されます。

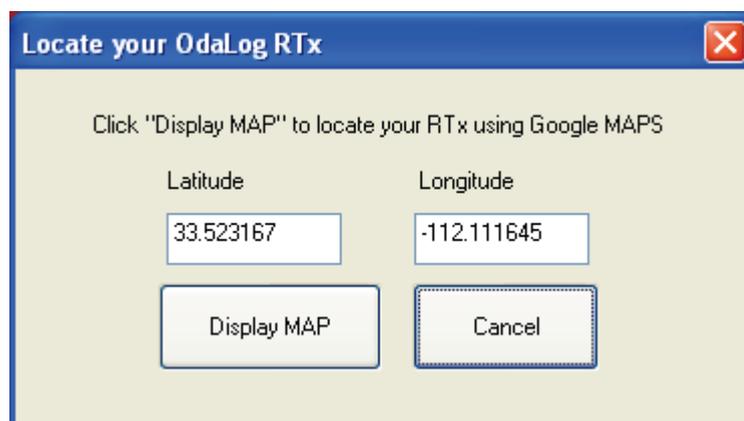


図 21 OdaLog RTx の位置情報の取得（GPS 搭載時のみ）

「地図で表示（Display MAP）」ボタンをクリックすると Google Map のウェブサイトが、お使いのパソコンのデフォルトブラウザ上で開き、選択した OdaLog の場所がロケーションマーカで表示されます。

## 4.5 OdaLog の日付/時間の設定

まず OdaLog がパソコンへ接続されていることを確認してください。接続が確認されると以下に進んでください。

1. メニューバーの「OdaLog」メニューから「日付/時間の設定 (Set Date and Time)」を選択してください。



図 22 日付/時間の設定

または

2. OdaStat-G ソフトウェアのスタートページを表示し（ツールバー：ウィンドウメニュー：ナビゲーションボタン；いずれかを使用）、スタートページ内の「日付/時間の設定 (Set Date and Time)」ボタンをクリックして下さい。

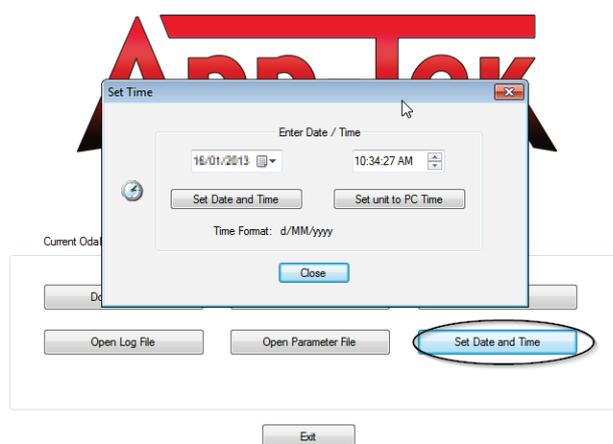


図 23 スタートページからの日付/時間の設定

## 4.6 ユーザーによる本体設定

まず OdaLog が IrDA 赤外線通信装置により、パソコンへ接続されていることを確認してください。接続が確認されると以下に進んでください。

1. 「OdaLog」メニューより「本体設定（Instrument Parameters）」を開いてください。



図 24 メニュー → 本体設定

もしくは

2. OdaStat-G ソフトウェアのスタートページから、「本体設定（Instrument Parameters）」ボタンをクリックして下さい。
3. 接続している OdaLog のタイプにあわせた「本体設定（Instrument Parameters）」が開きます。

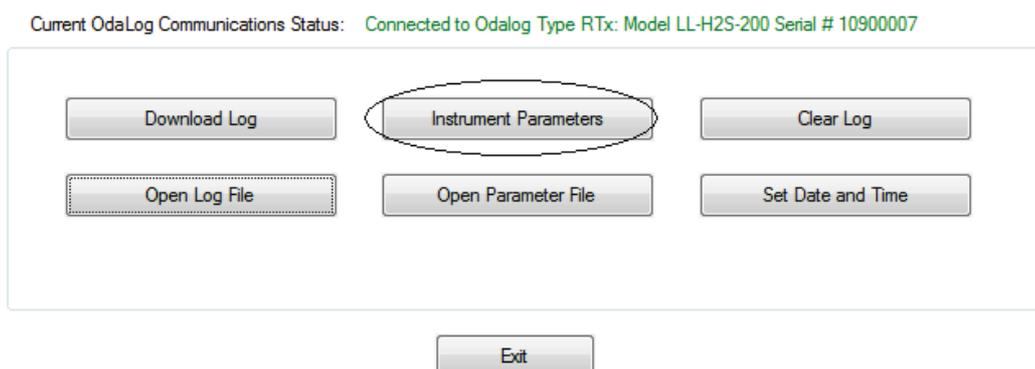


図 25 スタートページ → 本体設定

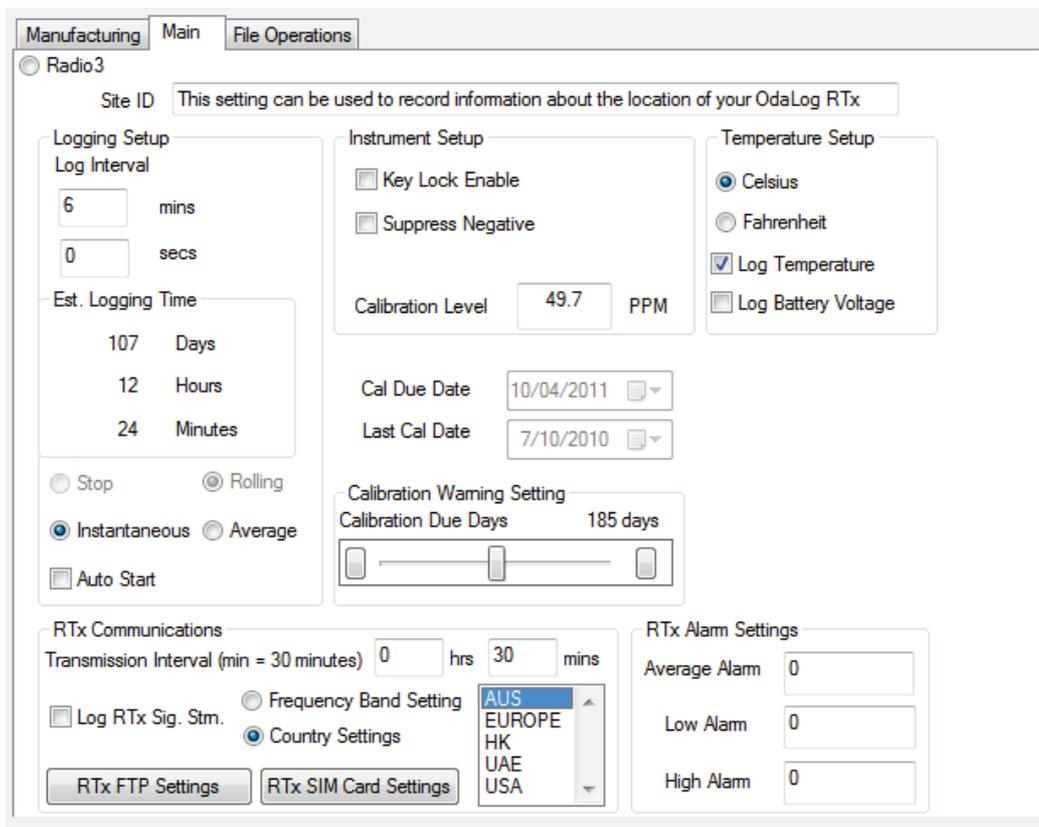


図 26 本体設定の「Main」タブ — OdaLog Rtx

#### 4. 6. 1 OdaLog L2 / RTx の本体設定

サイト ID (Site ID)            使用者で入力可能な設置場所情報

ログ間隔 (Log Interval)    OdaLog が計測を行う時間の間隔 (分、秒)

ログ期間の目安 (Estimated Logging Time)      OdaLog 内臓メモリーが一杯になるまでの時間。  
入力されたログ間隔を基準に自動で計算される。

ログ停止 (Stop)              この機能を使うと、内臓メモリーが一杯になった際、ログが自動で  
停止します。この機能は OdaLog RTx では無効になっています。

ログ上書き (Rolling)        この機能を使うと、内臓メモリーが一杯になった際、ログデータを書き  
していきます。

注意：ログ停止、上書きを選択する際は、以下のどちらのデータが重要かを検証してください。  
ログ開始直後のデータが重要な場合、ログ停止 (Stop) を使用してください。  
ログ終了直前のデータが重要な場合、ログ上書き (Rolling) を使用してください。

自動ログスタート (Auto Start) この機能を使用すると、OdaLog の電源が入るとすぐにデータログが自動で開始されます。その後の手動での開始操作は必要ありません。

キーロック (Key Lock Enable) ログモード中の本体のボタンと「INST 画面」を無効にします。この機能に関して詳しくは本体のマニュアルを参照してください。

マイナス補正 (Suppress Negative) ガスの計測数値が異常に低い場合、センサーの電子的な問題か仕様範囲外の温度による影響から、マイナスの計測数値が記録されている恐れがあります。この機能を使用すると、統計的な分析によってこれを防ぐことができます。(例：異常な計測結果など)

温度単位設定 (Temperature Unit Setup) 摂氏 Celsius / 華氏 Fahrenheit を選択します。

温度の記録 (Log Temperature) ガスの計測数値と同時に気温も記録します。

バッテリーの記録 (Log Battery Voltage) ガスの計測数値と同時にバッテリー残量も記録します。

校正期限日 (Calibration Due Date) OdaLog 校正の期限を表示します。

最終校正日 (Last Calibration Date) 最後に校正を行った日付を表示します。

校正期限日までの期間 (Calibration Due Days) 次回の校正日を設定できます。校正を行った人によって設定されてください。

#### 4.6.2 OdaLog RTx の本体設定

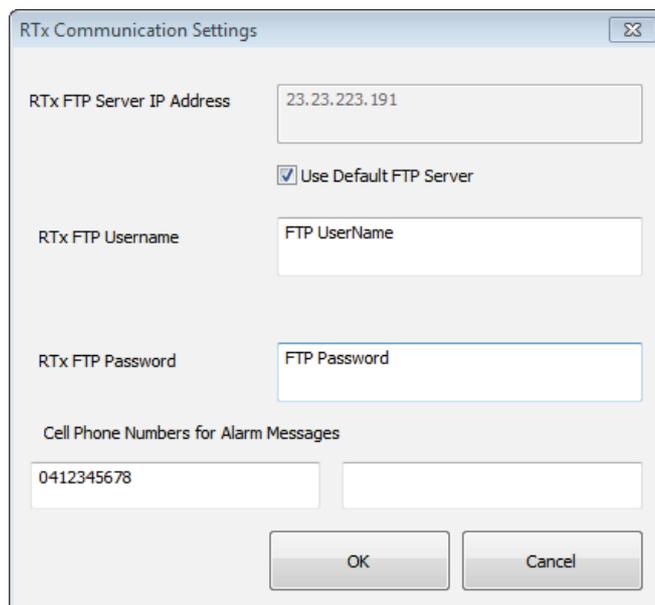
以下の設定は OdaLog RTx でのみ有効です。OdaLog L2 が接続された場合は、灰色で表示され選択することが出来なくなります。

データ送信間隔 (Transmission Interval) 設置中に GPRS モデムを使用して FTP サーバへログデータを送信する間隔を設定します (時、分)

電波強度 (Log Signal Strength) ネットワークと GPRS モデム間での電波強度を、ガスの計測数値と同時に記録します。

周波数設定 (Frequency Band Setting) 一部地域 (例：オーストラリア (AUS)) 向けの GSM 回線の設定を表示しています。この設定は OdaLog が設置されたときに設定されます。また必要な場合は IrDA 赤外線通信を使用し、使用者で設定することもできます。設定は「周波数設定 (Frequency Band Setting)」もしくは「国設定 (Country Setting)」の詳細をリストボックスから選択することによって設定することが出来ます。国を設定するとその国に合わせた周波数も同時に設定されます。

RTx FTP 設定 (RTx FTP Settings) このボタンをクリックすると、OdaLog RTx が FTP サーバへ接続するための FTP アカウント情報 (ユーザーネーム、パスワードなど) を設定するダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスでは、ガスの計測数値に関する SMS アラームを受け取る電話番号も設定することが出来ます。(最大2つ) 1つだけしか電話番号を登録しない場合は、どちらのボックスに入力されてもかまいません。



RTx Communication Settings

RTx FTP Server IP Address: 23.23.223.191

Use Default FTP Server

RTx FTP Username: FTP UserName

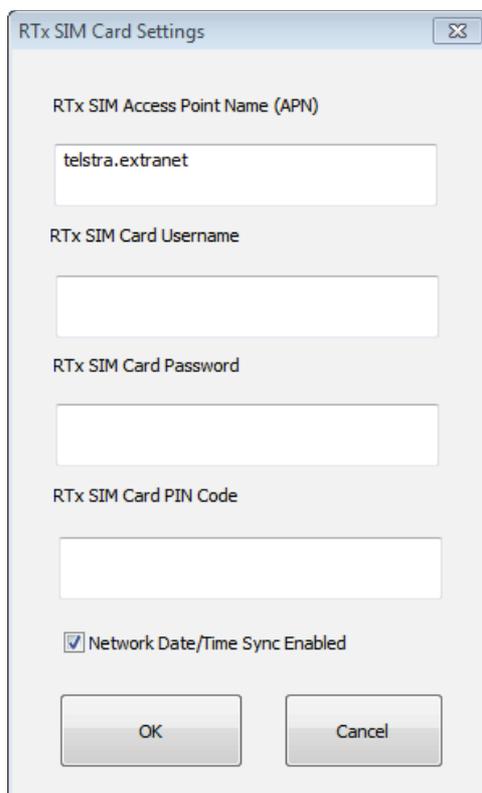
RTx FTP Password: FTP Password

Cell Phone Numbers for Alarm Messages

0412345678

OK Cancel

図 27 RTx FTP 設定



RTx SIM Card Settings

RTx SIM Access Point Name (APN): telstra.extranet

RTx SIM Card Username:

RTx SIM Card Password:

RTx SIM Card PIN Code:

Network Date/Time Sync Enabled

OK Cancel

図 28 RTx SIM カード設定

RTx SIMカード設定 (RTx SIM Card Settings) このボタンをクリックするとデータ送信に使用する GPRS モデムの設定を行うダイアログボックスが開きます。設定内容には、アクセスポイントネーム (APN)、ユーザーネーム、パスワード、PIN コードがあります。

RTx アラーム設定 (RTx Alarm Settings) OdaLog RTx が SMS アラームを送信するガス濃度の数値を設定することができます。計測数値が設定した数値に達した際、OdaLog は自動で、設定された電話番号へ SMS もしくはメールでアラームを送信します。

#### 4. 6. 3 OdaLog RTx FTP 設定ファイル (. fcf) を利用した遠隔地からの設定

OdaStat-G ソフトウェアでは以下の手順でも、OdaLog RTx のサイト ID、ログ感覚、データ送信間隔、アラーム設定といった設定を行うことができます。

設定する OdaLog RTx のフォルダを選択し、フォルダ選択ダイアログボックス上の「オンライン設定 (Online Parameters)」をクリックして下さい。(図 12 参照)

クリックすると、選択した OdaLog の設定ファイル (. cfg) がお使いのパソコンの C:\¥OdaStat-G¥temp へ保存されます。このファイルを開くと設定ダイアログボックスが表示されます (図 29 参照)。

このサイト ID、ログ感覚、データ送信間隔、アラーム設定、アラーム送信用の電話番号の設定は FTP 設定手順 (図 30 参照) に従って**遠隔地から**変更することができます。これらの設定項目に関してはセクション 4. 6. 1 および 4. 6. 2 を参照してください。

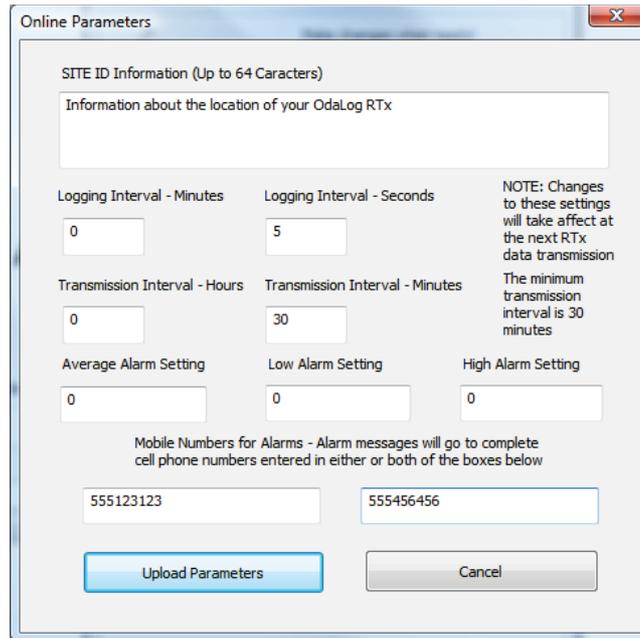


図 29 オンライン設定

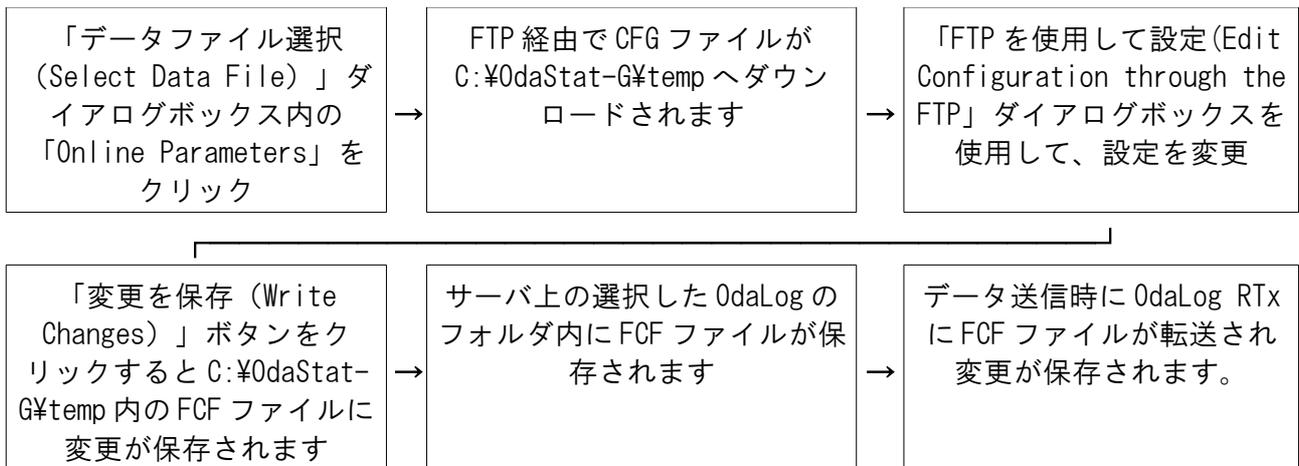


表 30 遠隔地からの設定

#### 4. 6. 4 OdaLog RTx 設定ファイルのバックアップの読み込み

OdaLog RTx 設定ファイルのバックアップファイルはFTP サーバ上に作成、保存されます。設定の変更を行う際に、正しい設定ファイルがFTP サーバ上に見つからなかった場合やエラーが起こった場合、使用可能なバックアップデータがリストで表示されます。リストからデータを選択すると、パソコンへダウンロードされ設定が可能になります。

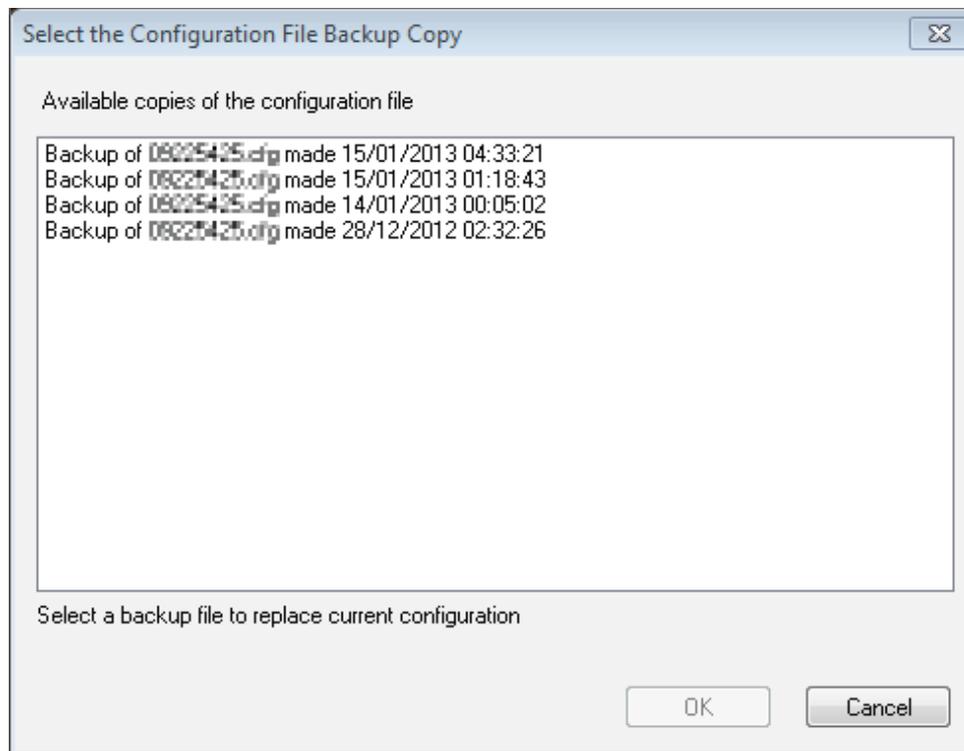


図 31 バックアップ設定データ 選択画面

## 4.7 IrDA 赤外線通信装置を使用したログデータのダウンロード

最初に赤外線通信機器がパソコンへ接続されていることを確認してください（セクション4.3参照）。OdaLog が接続に成功したことを確認して以下に進んでください。

1. OdaLog メニューから「ログデータのダウンロード (Download Log)」を選択してください。

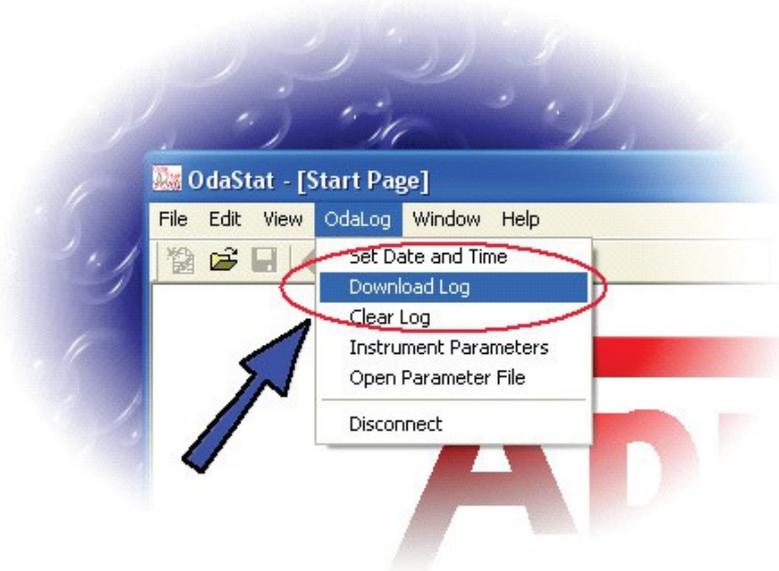


図 32 OdaLog メニュー → Download Log

または

2. OdaStat-G ソフトウェアのスタートページを表示し（ツールバー：ウィンドウメニュー：ナビゲーションボタン；いずれかを使用）、スタートページ内の「ログデータのダウンロード (Download Log)」ボタンをクリックして下さい。

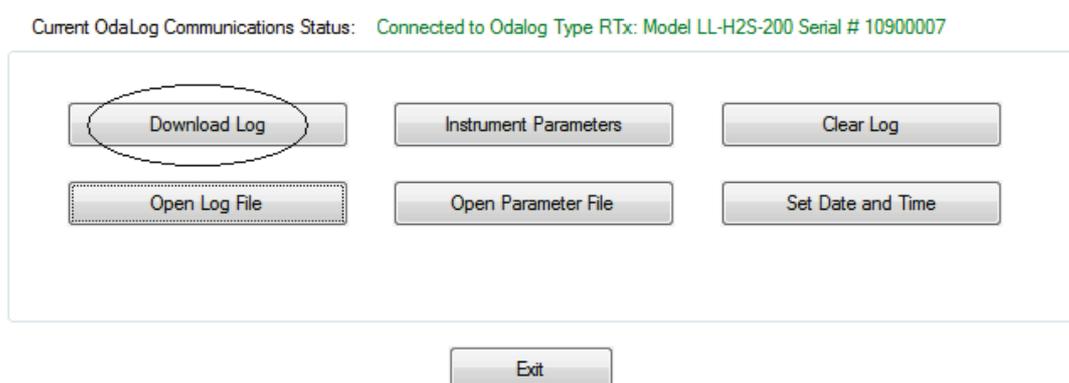


図 33 スタートページからのログデータのダウンロード

クリックすると、接続している OdaLog のログデータのダウンロードが始まります。ダウンロード状況は接続機器バー (Communications Link Bar) に表示されます。

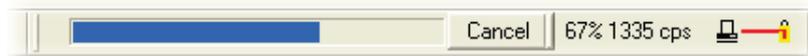


図 34 ログデータのダウンロード状況

注意：接続されている OdaLog 内にログファイルを作成するだけのログデータがない場合（例：ログデータ消去後）、画面に「ログデータが少なすぎます。ダウンロードは行われませんでした (Log too small. No log to download)」のメッセージが表示されます。

ダウンロードが行われている間でも、通信を使用しない機能（例：グラフの閲覧）に限り、OdaStat-G ソフトウェアを使用することが出来ますが、日付/時間の設定 (Setting Date and Time) や本体設定 (Instrument Parameters) などは使用することが出来ません。ダウンロードが終了すると「ダウンロードが完了しました (Download Complete)」のメッセージが表示されます。

## 4.8 セッションの選択

ログデータのダウンロードが完了すると、セッション選択機能 (Session Selector) が有効になり、閲覧するセッションを選べるようになります。チェックボックスをクリックし、セッションを選択してください。その後「表示 (Display)」ボタンをクリックすると、ログデータがグラフで表示されます。（セクション5 グラフ操作参照）

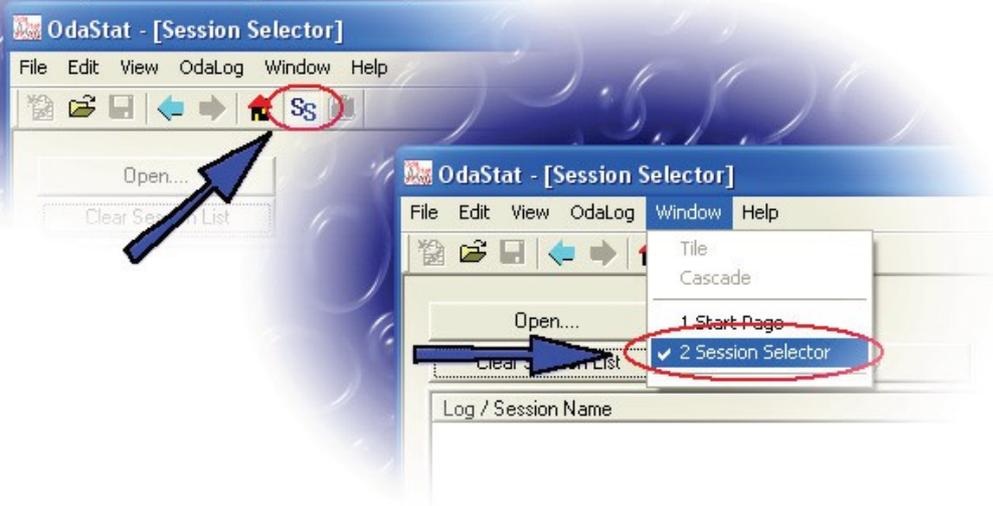


図 35 セッション選択機能の起動

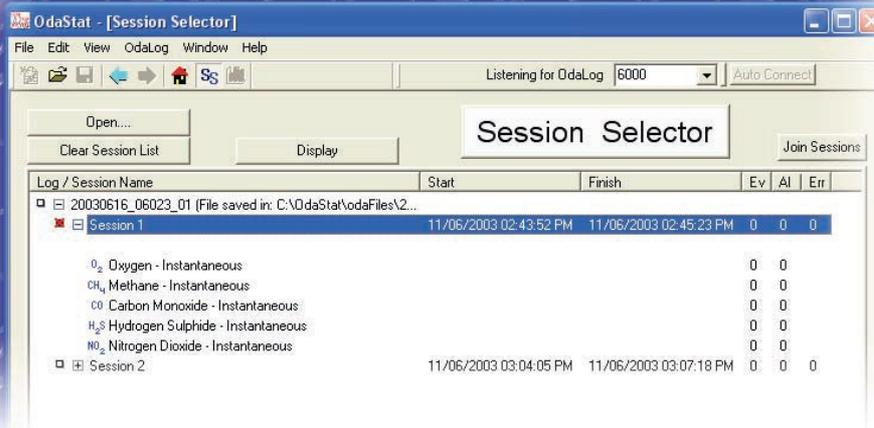


図 36 セッション選択画面

### セッションリスト消去ボタン (Clear Session List)

このボタンをクリックすると、セッション画面中の表示がクリアされます。セッション画面内に表示されているものが増えすぎた場合に便利な機能です。

### セッション画面

セッション画面には6つの項目があります。

ログ/セッション名 (Log/Session Name)	ファイルの名前
開始時間 (Start)	ログセッションの開始時間
終了時間 (Finish)	ログセッションの終了時間
イベント (Ev)	セッション中に起こったイベントの回数
アラーム (Ar)	セッション中に送信されたアラームの回数
エラー (Err)	セッション中に起こったエラーの回数

セッションを見るにはチェックボックスをクリックし「表示 (Display)」ボタンをクリックして下さい。セッションの選択を解除するにはもう一度チェックボックスをクリックして下さい。Oda ファイル内の全てのセッションを選択するには、選択したい Oda ファイルの名前の隣にあるチェックボックスをクリックして下さい (赤の「×」でチェックが入ります)。解除するにはもう一度チェックボックスをクリックして下さい。

注意：セッションがすでにグラフページで開かれている場合、セッション選択画面ではチェックが付いたままになります。このセッションのチェックを外して「表示 (Display)」ボタンを押すと、グラフページは閉じられます。

### 表示ボタン (Display)

選択されたセッションをグラフページ内にグラフで表示します。

## セッションを結合 (Join Session)

異なる機種や期間でのセッションであっても、複数のデータを選択しセッション選択画面内の「セッションを結合 (Join Session)」ボタンを押すと、一つのグラフにまとめて表示することが出来ます。

## 4.9 OdaLog のメモリークリア

この機能を使用すると、OdaLog 本体の内蔵メモリー内のログデータを全てクリアすることが出来ます。この機能は OdaLog がパソコンへ接続されている場合のみ使用できます。

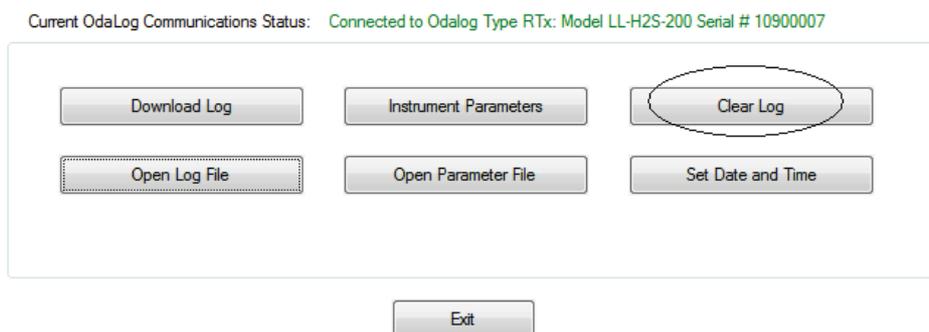


図 37 ログデータのクリア

## 4.10 保存された過去のログデータの閲覧

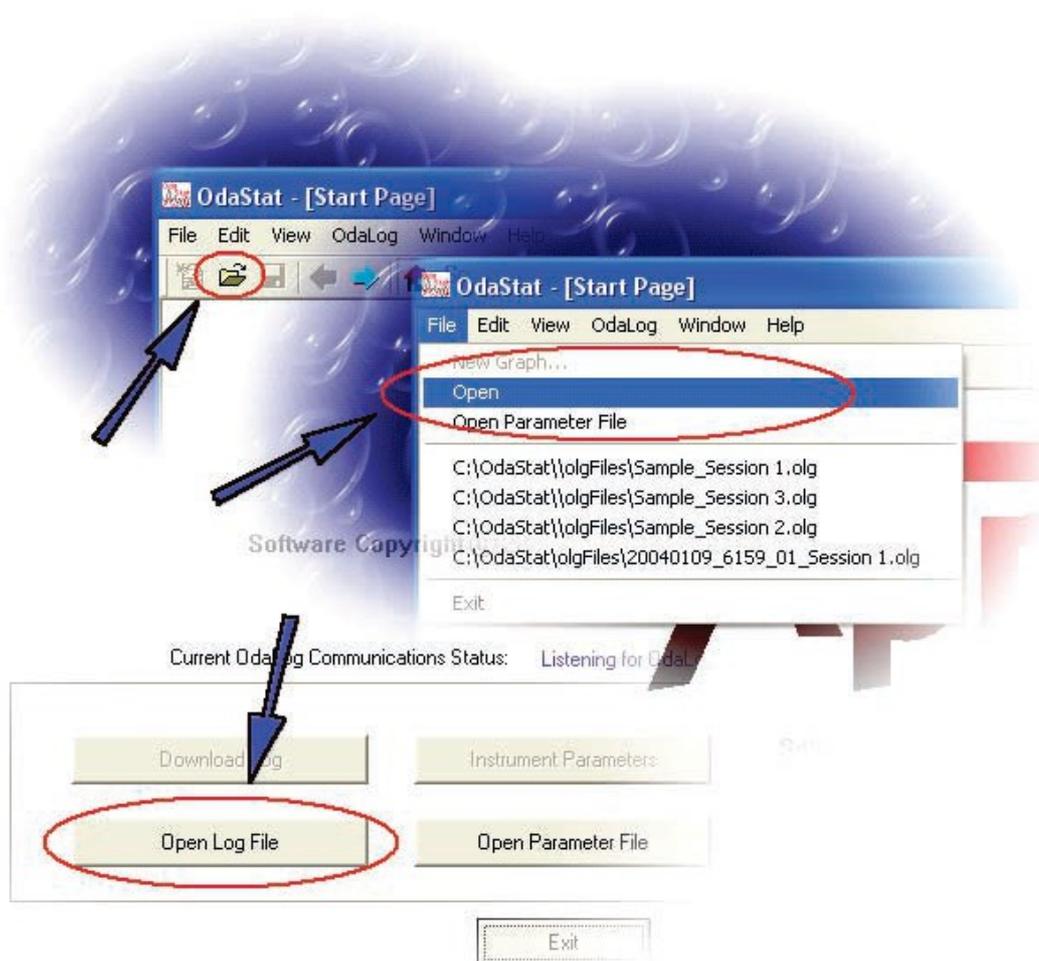


図 38 過去に保存されたデータの閲覧

過去に保存したログファイルは、OdaStat-G ソフトウェアのスタートページ内の「ログファイルを開く (Open Log File)」ボタン、もしくはツールバー上のボタン (図 38 参照) から開くことができます。これらのいずれかをクリックするとファイル選択画面が表示されます。この選択画面は OdaLog-G ソフトウェアのみの機能で、ログファイルの情報をファイルそのものを開かずに閲覧することができます。

## 4.11 ログデータの書き出し（CSV形式、JPEG画像形式）

ログデータを CSV 形式のファイルとして書き出すには、事前にグラフで開いておく必要があります。その後、ファイル（File）メニューから「書き出し（Export）」を選択してください。CSV 形式もしくは JPEG 形式で書き出すことができます。

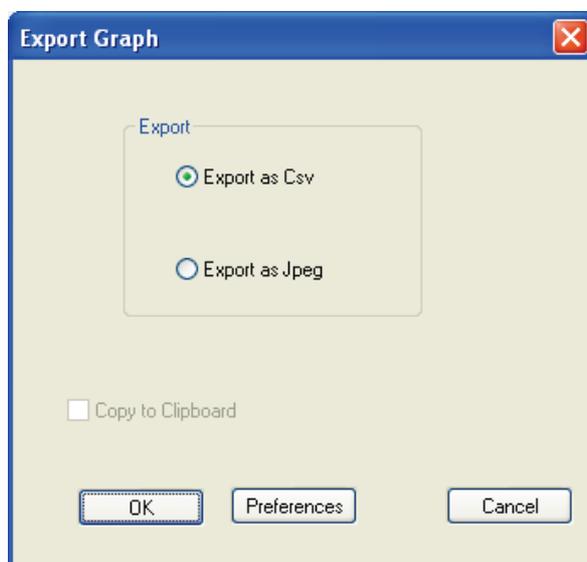


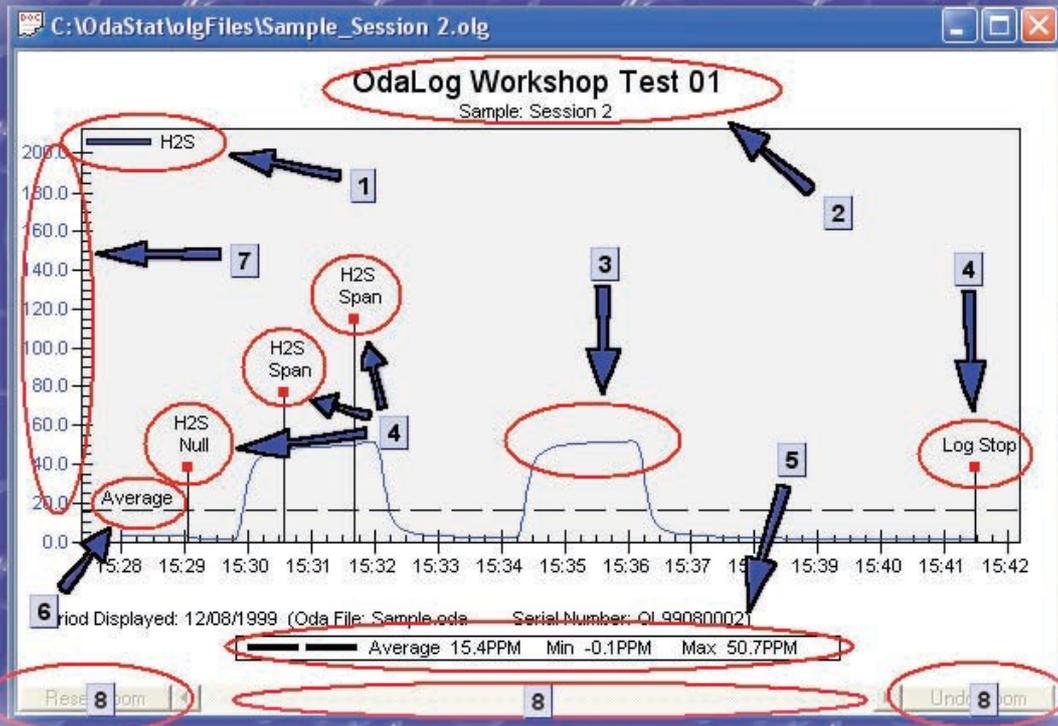
図 39 グラフの書き出し

CSV 形式のファイルとして保存されたログデータは Microsoft Excel 等の表計算ソフトで開くことができます。JPEG 画像形式で書き出されたログデータ（グラフ）は、画像表示ソフトや画像編集ソフトで開くことができます。（例：ペイント、Photoshop、PhotoEditor）

## 5 グラフ操作

### 5.1 ログデータの閲覧

OdaLog からダウンロードされたログデータや、パソコンに保存されたログデータは、グラフ形式で表示することができます。



1. ガスの見出し 他にもグラフが表示されているときにクリックすると、非表示に出来ます。
2. グラフのメインタイトル
3. ガスの数値
4. 記録中に起こったイベント
5. ガスの統計 (ある場合のみ表示)
6. 平均値のガイド
7. 目盛り
8. ズームボタン

## 5.2 グラフ画面のツール



オーバーレイモードで表示



セパレートモードで表示 (※1)



表にして表示



瞬間的な数値を表示 (※2)



対象ガスの STEL と TWA 数値を表示 (※2)



全てのガスの短時間ばく露限界 (STEL) を表示 (※2)



全てのガスの時間加重平均 (TWA) を表示 (※2)



水平方向、垂直方向にズーム



水平方向のみズーム



グラフにラベルを追加



セッション情報を表示

※1 この機能は OdaLog タイプ 6000/7000 で作成されたの 2 つ以上のガスデータが入っているファイルでのみ有効です。OdaStat-G ソフトウェアは IrDA 赤外線を使用した OdaLog 6000/7000 への接続は出来ませんが、データの閲覧、書き出しは行うことができます。

※2 この機能は STEL/TWA 数値を記録しているファイルにのみ有効です。

## 5.2.1 オーバーレイモード

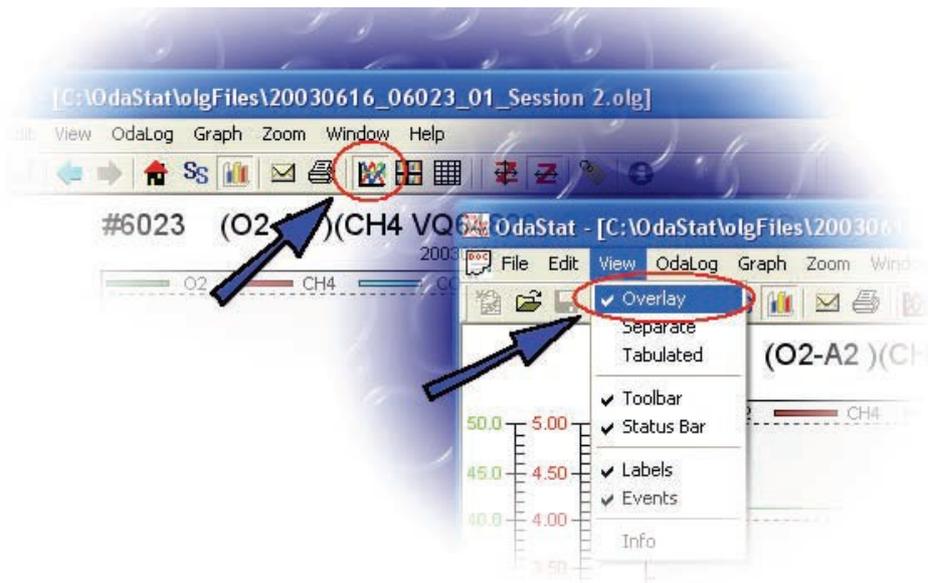


図 41 オーバーレイモードの選択

オーバーレイモードを使用すると、セッション中の全てのガスが一つのグラフ内に表示されます。ガスの目盛りはレンジに対してそれぞれ表示されます。（セパレートモードではガスごとに別のグラフが表示されます）

オーバーレイモードを使用すると以下のような画面で表示されます。

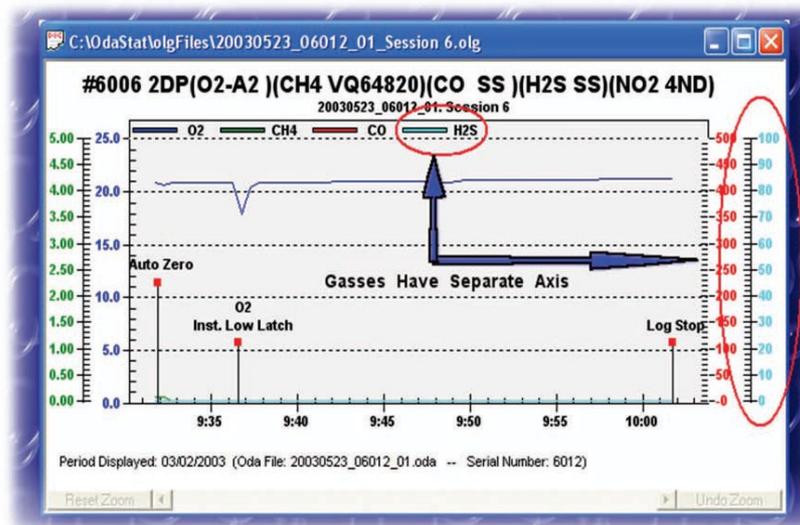


図 42 オーバーレイモードの画面

## 5.2.2 セパレートモード（複数のガスデータがある場合のみ）

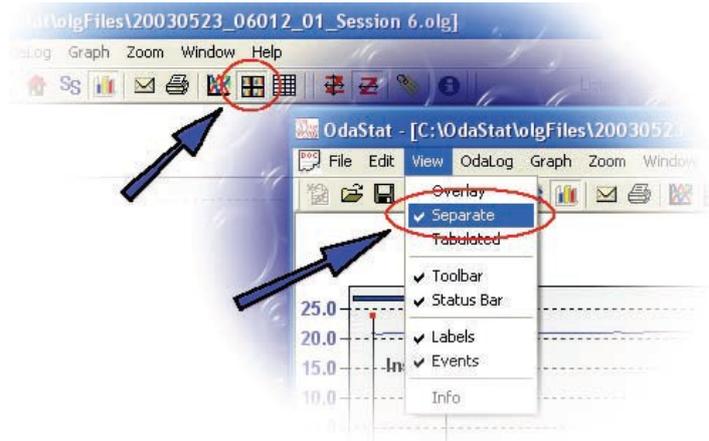


図 43 セパレートモードの選択

注意：セパレートモードは複数のガス計測値のあるデータでのみ有効です。

セパレートモードを使用すると、セッション内の複数のガス数値がそれぞれ別のグラフで表示されます。一度に1つの画面内に表示できるグラフは4つまでです。

セパレートモードを使用すると以下のような画面で表示されます。

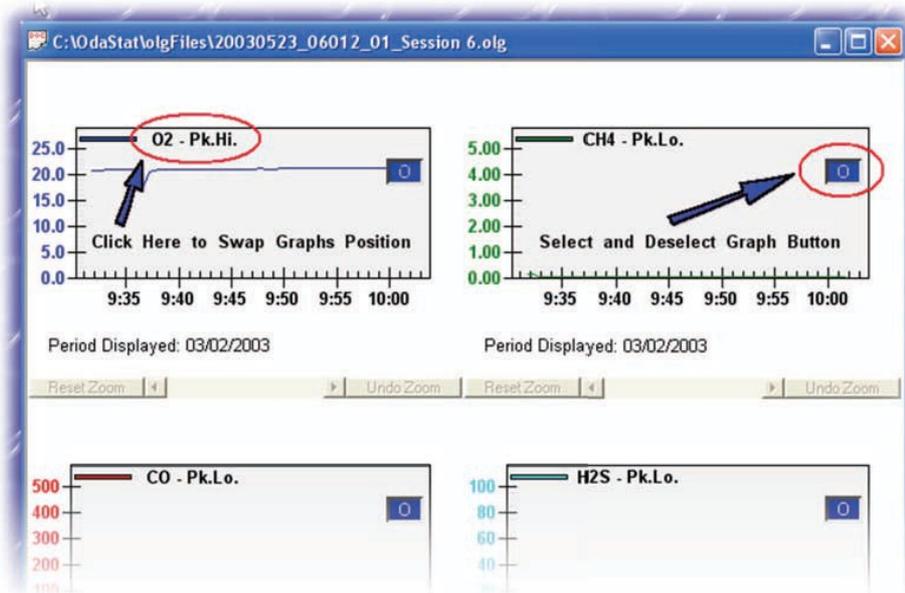


図 44 セパレートモードの画面

セパレートモードとオーバーレイモードではズームの動作が異なります。セパレートモードでは、一つのグラフをズームすると他の選択したグラフも同じくズームされます。リセット、やり直し、スクロール動作も同様です。

セパレートモードではさらに、グラフ画面の場所をそれぞれ交換することが出来ます。表示場所を交換するにはグラフの上部に表示されているガス見出しをクリック（図 44 参照）し、同じく交換したいグラフのガス見出しをクリックして下さい。

### 5.2.3 表にして表示

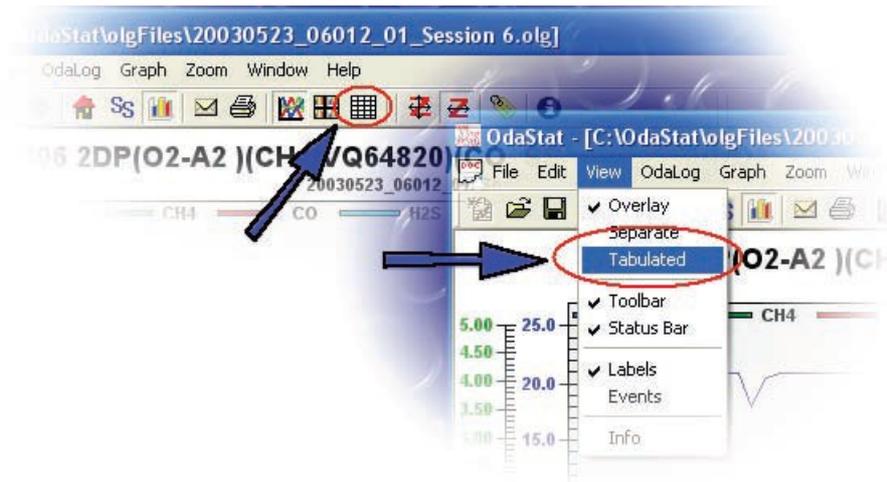


図 45 表示の選択

この機能を使うと、データを表の形式で見ることが出来ます。

Date	Time	O2-%VOL	CH4-%VOL	CO-PPM	H2S-PPM
03/02/2003	9:31:44 AM	20.7	0.07	0	0
03/02/2003	9:32:14 AM	20.5	0.07	0	0
03/02/2003	9:32:44 AM	20.7	0.00	0	0
03/02/2003	9:33:14 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:33:44 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:34:14 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:34:44 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:35:14 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:35:44 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:36:14 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:36:44 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:37:14 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:37:44 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:38:14 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:38:44 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:39:14 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:39:44 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:40:14 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:40:44 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:41:14 AM	20.8	0.00	0	0
03/02/2003	9:41:44 AM	20.8	0.00	0	0

Date/Time	Type	Event Description
03/02/2003 10:01:45 AM	SYSTEM	Log Stop
03/02/2003 9:36:34 AM	GAS	O2 Instantaneous Low Alarm (latching)
03/02/2003 9:31:52 AM	SYSTEM	Auto Zero

図 46 表形式で表示

表での表示時の機能

#### 「クリップボードへコピー」ボタン (Copy to Clipboard)

このボタンをクリックすると選択されたデータ（色が変わったデータ）がパソコンのクリップボードへコピーされます。コピーされたデータは表計算ソフトなどに貼り付けることができます。

#### 「閉じる」ボタン (Close)

このボタンをクリックすると、表が閉じられグラフ画面へ戻ります。

#### 「印刷」ボタン (Print)

このボタンをクリックすると、プリンターへ印刷データが送られます。

#### 「CSV形式で書き出し」ボタン (Export as CSV)

このボタンをクリックすると、データがCSV形式で書き出されます。

#### 5.2.2 瞬間的な数値の表示 (特定のログタイプでのみ有効)

この機能は STEL / TWA 数値を記録しているログファイルのみで有効です。詳しくは OdaLog の本体説明書をご参照ください。

#### 5.2.2 特定のガスの STEL / TWA 数値の表示 (特定のログタイプでのみ有効)

この機能は STEL / TWA 数値を記録しているログファイルのみで有効です。詳しくは OdaLog の本体説明書をご参照ください。

#### 5.2.3 短時間ばく露限界 (STEL) の表示

この機能は STEL / TWA 数値を記録しているログファイルのみで有効です。詳しくは OdaLog の本体説明書をご参照ください。

#### 5.2.4 時間平均加重 (TWA) の表示

この機能は STEL / TWA 数値を記録しているログファイルのみで有効です。詳しくは OdaLog の本体説明書をご参照ください。

## 5.2.5 ズーム機能

初期設定では、一つのセッションに含まれているログデータは1度に全て表示されます。特定の場所を詳しく見るには以下のズーム機能が便利です。

1. 使用するズーム機能を選択してください。



水平方向、垂直方向にズーム



水平方向のみズーム

2. グラフ内の拡大したい範囲の最初の地点にマウスのカーソルを動かしてください。
3. マウスの左ボタンを押しっぱなしにして下さい。
4. ボタンを押したまま、マウスを拡大したい範囲まで右に動かしてください。水平、垂直のズームを選択している場合は同時に上から下にもマウスを動かして拡大することができます。
5. 左ボタンを離してください。  
これで、グラフには選択した2箇所（水平、垂直方向を選択している場合は4箇所）の範囲内が表示されます。

グラフを拡大した後は、画面下部のスクロールバーで続きを見ることが出来ます。

必要な場合は、さらに拡大することも出来ます（最大ログ間隔3つ分まで）。また、「ズームやり直し（Undo Zoom）」ボタンを使用して、一つ前のズーム段階まで戻ることも出来ます。また「ズームのリセット（Reset Zoom）」ボタンを使用すると、ズームが解除され、再び全体が表示されます。

### 5.3 グラフ表示のオプション

グラフ表示ではオプション設定が使用できます。オプション設定を使用するにはメニューバー上の「グラフ (Graph)」メニューから「オプション (Option)」を選択してください。また、グラフ上でマウスの右クリックを使用しても同じくオプション設定を表示することができます。

### 5.4 グラフの形式

グラフ表示には表示に関する設定も使用できます。設定を使用するにはメニューバー上の「グラフ (Graph)」メニューから「スタイル (Style)」を選択してください。また、グラフ上でマウスの右クリックを使用しても同じく設定を表示することができます。

### 5.5 オーバーレイ表示 (タイプ I やIVなどのログタイプ機種のみ)

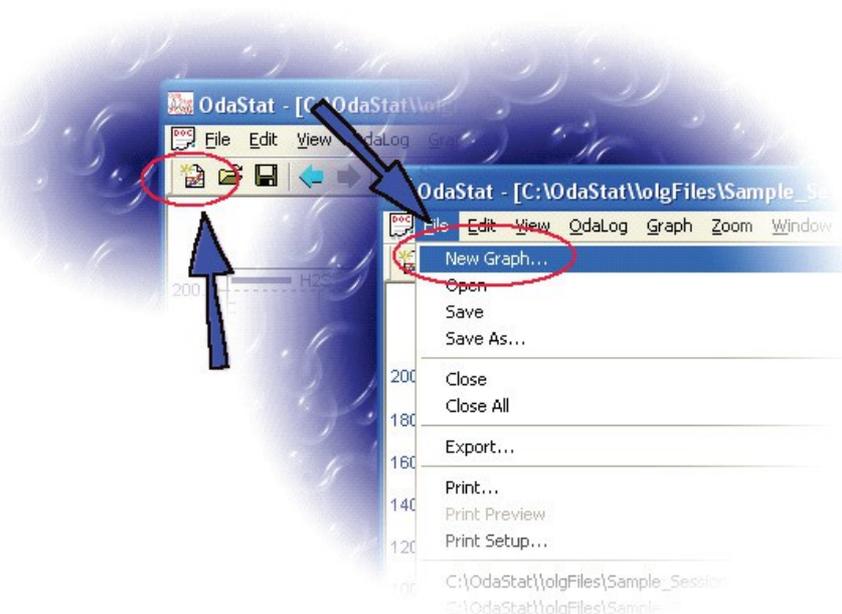


図 47 新規グラフ作成

注意：編集用セッションの作成は、ログタイプの機種のみで有効です。

OdaStatには異なるセッションを重ねて一つに表示する機能があり、新規のオーバーレイセッションを作成することで使用できます。新規セッションを作成するには、事前にログタイプのOdaLogからセッションをダウンロードし、グラフで表示している必要があります。ここで作成されたファイルは「.mlg」ファイルとして保存されます。

新規編集用セッションを作成するには、メニューバーの「ファイル (File)」メニューを開き「新規グラフ (New Graph)」、もしくはツールバーの「新規グラフ (New Graph)」を開いてください。(図 47 参照)

新規グラフが作成されると以下の作業が行えるようになります。

1. ドラッグアンドドロップでセッションを一つに重ねる。
- もしくは
2. コピーアンドペーストでセッションを一つに重ねる。

## 5.6 ドラッグアンドドロップを使用したオーバーレイ

ドラッグアンドドロップを使用してセッションを重ねるには、重ねたいグラフを、新規グラフへと移動させてください。（図 48 参照）

1. ガスの見出しにカーソルを合わせてボタンを押しっぱなしにする。
2. 新規グラフまでドラッグし、グラフ上でボタンを離す。

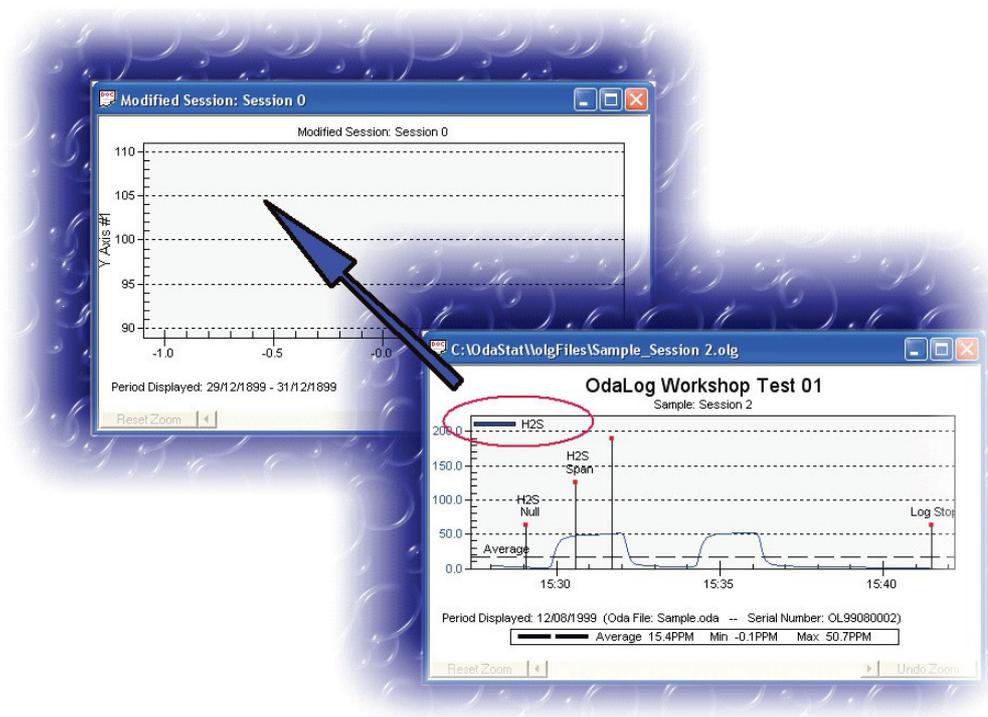


図 48 ドラッグアンドドロップを使用したオーバーレイ

## 5.7 コピーアンドペーストを使用したオーバーレイ

コピーしたいデータのあるグラフ上で右クリックしてください。

「ウィンドウ (Window)」メニューを開き「タイル表示 (Tile)」を選択してください。その後、重ねたいデータの表示されているグラフ上で右クリックしてください。メニューが表示されます。

メニューには「コピー (ガスの名前)」と「温度のコピー (Copy Temperature)」が表示されます。グラフに重ねたいほうを選択してください。コピー元のグラフに温度データがない場合は「コピー (Copy)」のみが表示されます。新規グラフ上で右クリックすると、メニューが表示されます。(図 49 参照)

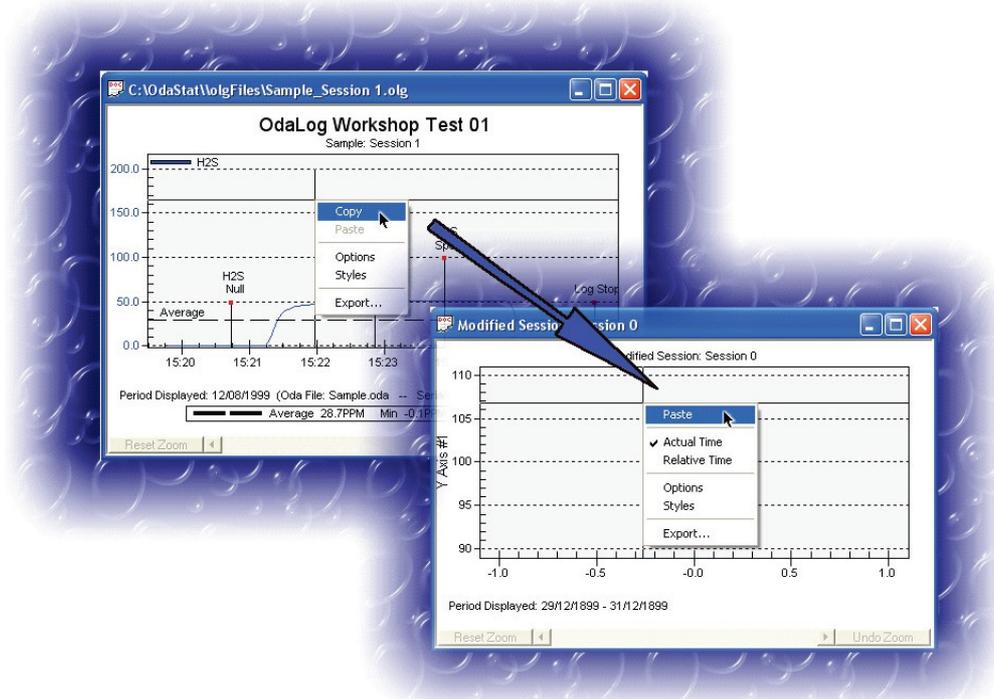


図 49 コピーアンドペーストを使用したオーバーレイ

### 5.7.1 データの貼り付け

メニュー内から「貼り付け (Paste)」を使用すると、コピーされたデータがグラフに貼り付けられます。

### 5.7.2 絶対時間に合わせる

「絶対時間 (Actual Time)」を使用すると、実際の計測時間に合わせて表示されます。

### 5.7.3 相対時間に合わせる

「相対時間 (Relative Time)」を使用すると、それぞれのデータの開始時間を基準に表示されます。

#### 5.7.4 異なるタイプの OdaLog からのデータ

異なるタイプの OdaLog (例：タイプ I と L2) からのデータでも同じグラフ上に貼り付けることが出来ますが、書き出しや、表での表示は行えません。これらの作業はセッション選択ダイアログボックス内の「セッションの結合 (Join Sessions)」機能を使用することで行えるようになります。(セクション 4.9 参照)

### 5.8 ラベルの編集



図 50 ラベルの編集

#### ラベルの追加

グラフにラベルを追加するには、ツールバーのラベルツールをクリックして下さい (図 50 参照)。ラベルツールをクリックすると、グラフ内のデータにラベルを追加できるポイントが表示されます。ラベルを追加したいポイントを選択すると、ラベル編集用のボックスが表示されます。ボックス内に、ラベルに表示したい内容を入力し「OK」をクリックして下さい。選択したポイントにラベルとポインターが表示されます。

#### ラベルの移動

作成したラベルは、グラフ内で移動することが出来ます (ラベルのポインターは指定されたポイントに常につながっており、動かすことは出来ません)。ラベルを移動するには、移動したいラベルの赤いマーカー上でマウスのボタンを押しっぱなしにし、移動したい場所までドラッグして下さい。(図 51 参照)



図 51 グラフのラベルの例

### ラベルの編集、削除

作成したラベルを編集、削除するには、編集したいラベルの赤いマーカー上（図 51 参照）で右クリックしてください。ラベル編集ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックス内の機能は以下のとおりです。

OK	ダイアログボックスで行った変更を適応して、ダイアログボックスを閉じる
削除 (Delete)	選択したラベルをグラフ内から削除し、ダイアログボックスを閉じる
キャンセル (Cancel)	ダイアログボックスで行った変更を適応せずに、ダイアログボックスを閉じる

## 5.9 オーバーレイグラフ上でのデータの表示/非表示

いくつかのデータを一つのグラフ上で表示している際、特定のデータを非表示にするには、グラフ内の非表示にしたいガス見出しをクリックして下さい。

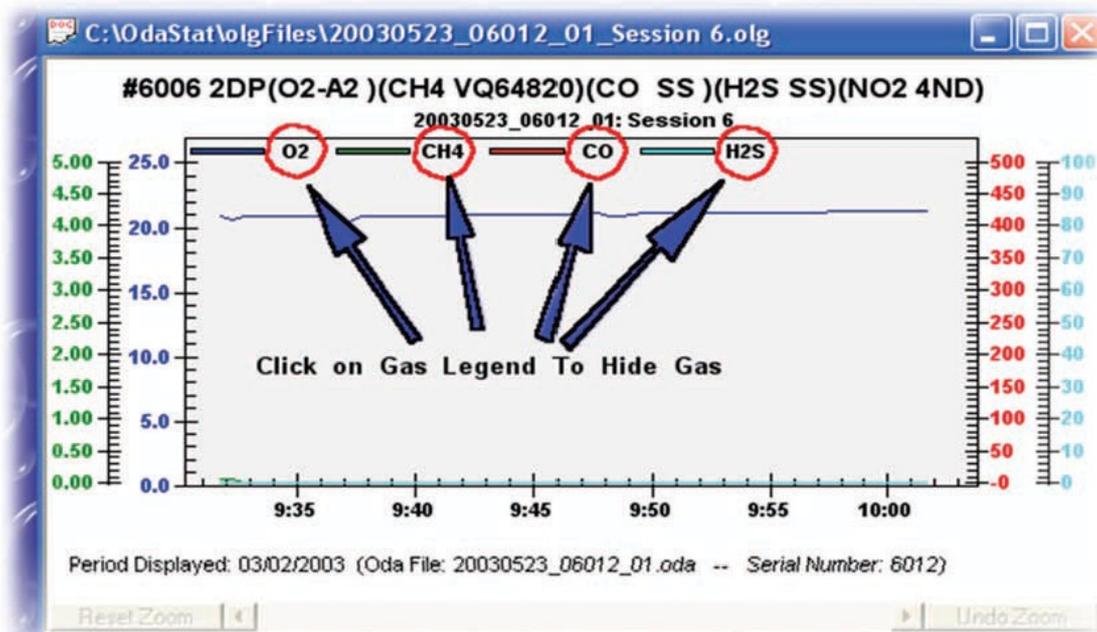


図52 データの非表示

非表示になったデータは、グラフ画面の上部外に名前が表示されます。再びグラフ上に表示するには、画面外に表示されているガス見出しをクリックして下さい。

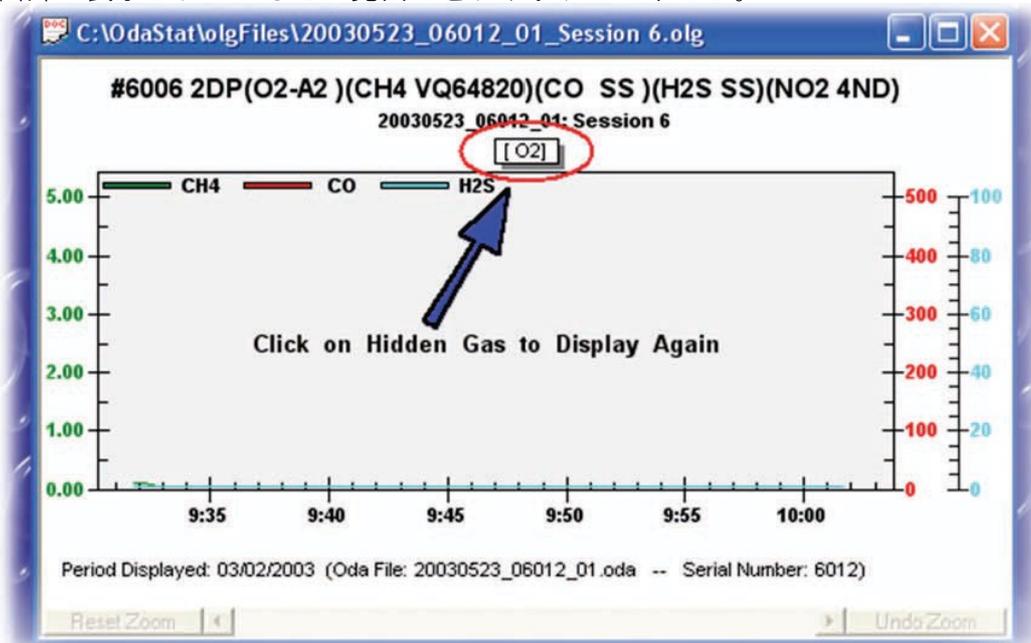


図53 データの再表示

## 5.10 イベントのラベルの表示/非表示

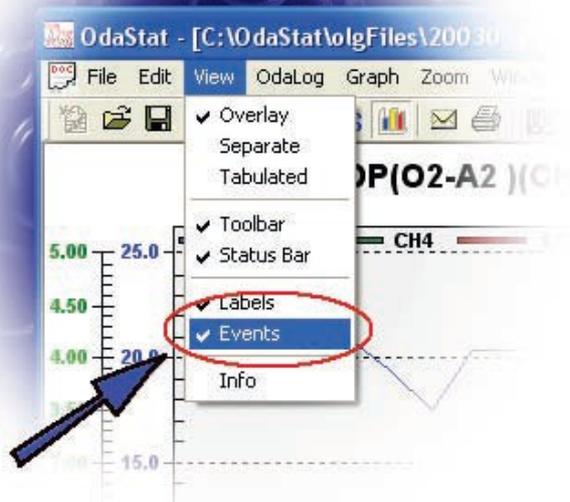


図 54 イベントのラベルの表示/非表示

メニューバー上の「表示 (View)」から、「イベント (Event)」のチェックを外すとイベントのラベルが非表示になります。再度チェックを入れると、表示されます。

## 5.11 ラベルの表示/非表示

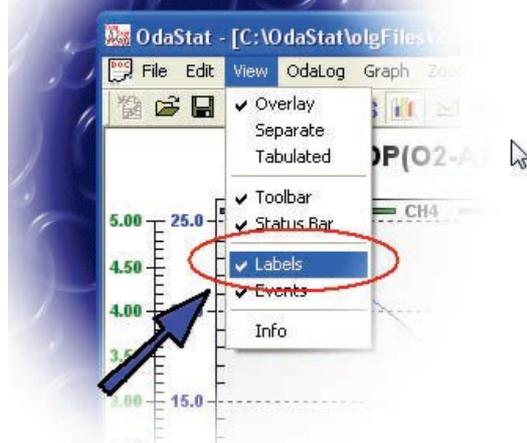


図 54 ラベルの表示/非表示

メニューバー上の「表示 (View)」から、「ラベル (Labels)」のチェックを外すとラベルが非表示になります。再度チェックを入れると、表示されます。

## 5.12 グラフの印刷

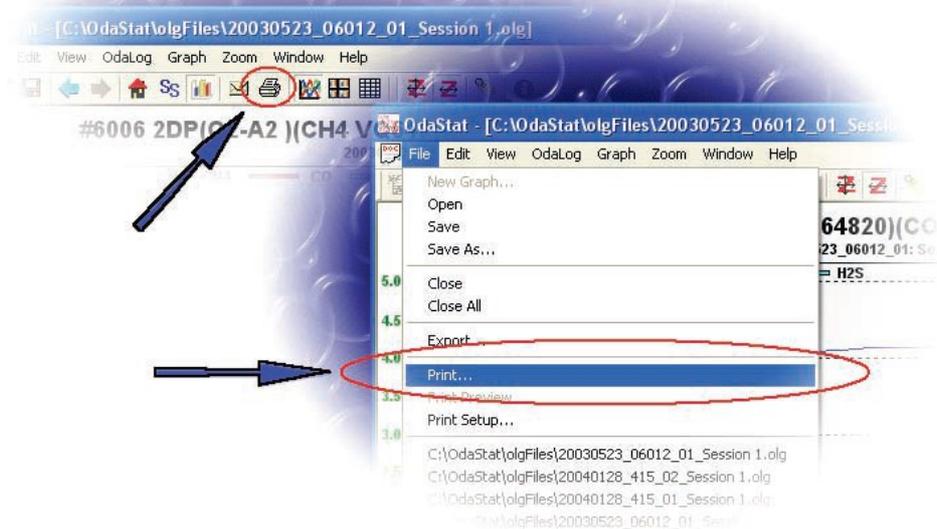


図 56 グラフの印刷

グラフを印刷するには、ツールバー上のアイコン（図 56 参照）をクリックするか、メニューバー上の「ファイル (File)」メニューから「印刷 (Print)」を選択してください。初期設定では白黒印刷モードになっており、グラフは白黒で印刷されます。このモードではガス見出しの表示も白黒で表示され、ラベルは Y 軸に配置されます。またグラフ上に表示されている複数のデータも白黒で印刷されます。カラーで印刷する場合は、グラフ表示形式設定タブの「白黒で印刷 (Print in Black and White Mode)」の選択を解除してください。

注意：ツールバー上の印刷アイコンから印刷を実行すると、自動的にお使いのパソコンの印刷設定のままで印刷されます。メニューバーのファイルメニューから印刷を実行すると印刷設定ダイアログボックスが表示されます。

## 5.13 セッション情報

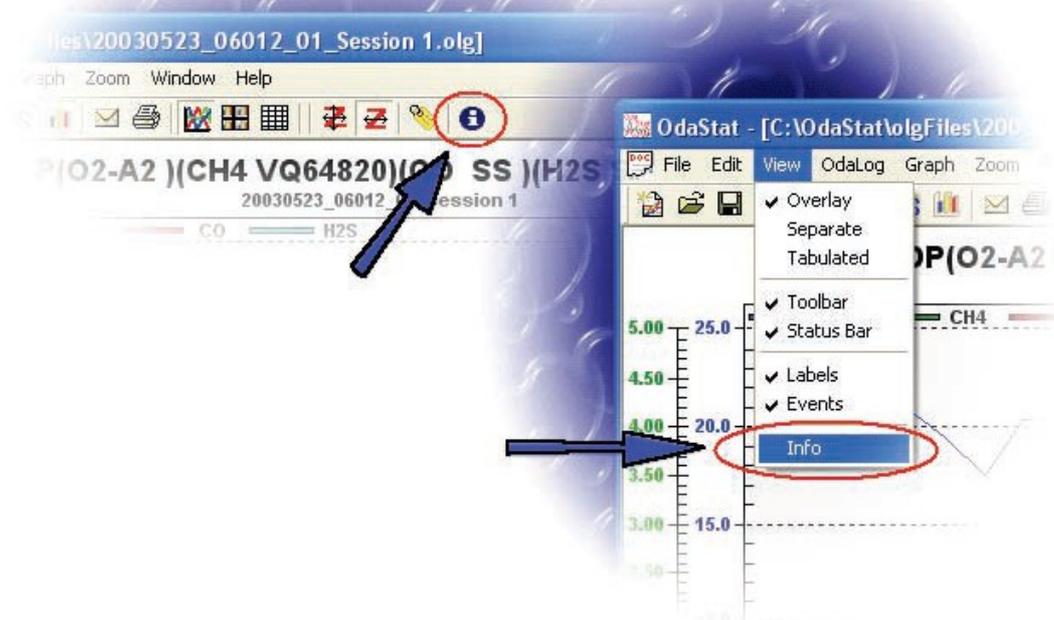


図 57 セッション情報

セッションに関する情報を見るには、セッションを開き（セクション 4.10 「保存された過去のログデータの閲覧」参照）、ツールバー上の「情報 (Information)」ボタンをクリックして下さい。（図 57 参照）セッション情報画面は閲覧専用です。セッション情報画面には以下の機能があります。

「表示されているデータのみ」のオプション (Screen Data Only)

OK ボタン

印刷 (Print) ボタン

### 5.13.1 「表示されているデータのみ」のオプション (Screen Data Only)

このオプションを選択すると、グラフ画面に表示されている範囲内のデータの情報のみを表示します。（例：グラフがズームされていた場合、2つのズームポイント間の情報のみが表示されます）

### 5.13.2 OK ボタン

このボタンをクリックすると、セッション情報画面が閉じられます。

### 5.13.3 印刷 (Print) ボタン

このボタンをクリックすると、プリンターへ印刷データが送られます。

## 6 ソフトウェアの環境設定



図 58 OdaStat-G ソフトウェアの環境設定

ソフトウェアの環境設定は、スタートページから行えます。スタートページを表示し、メニューバーの「編集 (Edit)」メニューから「環境設定 (Preferences)」をクリックすると環境設定画面が開きます。設定には大きく3つの項目があります。

### 6.1 全般設定 (Miscellaneous)

全般設定タブでは、校正アラームの設定や、プログラムのフォント、接続設定などのさまざまな設定を行うことができます。

### 6.2 通信設定 (Communications)

通信設定タブでは、ソフトウェアと OdaLog 間の通信に関する設定を行うことができます。

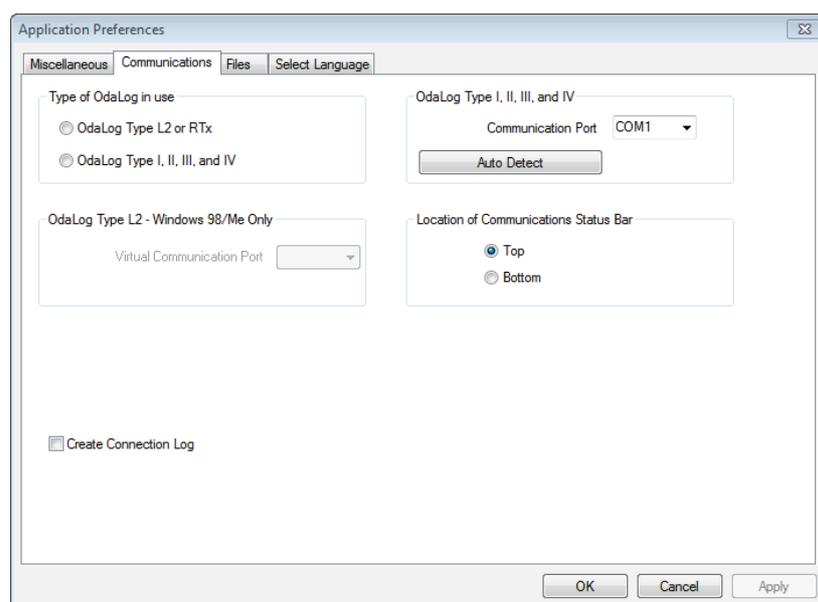


図 69 設定 通信設定タブ

通信設定はソフトウェア環境設定から行うことができます。この設定では、OdaLog と OdaStat-G ソフトウェア間の接続、通信に関する設定や変更を行うことができます。設定可能項目は以下の 4 つになります。

- ・使用する OdaLog のタイプ (Type of OdaLog in use)

OdaStat ソフトウェアは OdaLog のタイプ (RTx、L2、またはタイプ I ~IV) によって異なる赤外線機器を使用して通信を行います。OdaLog RTx / L2 を使用する際には OdaLog RTx / L2 にチェックを、タイプ I ~IV を使用する際には タイプ I ~IV にチェックを入れてください。

- ・通信ステータスバーの配置 (Location of Communications Status Bar)

通信ステータスバーの配置を上部ツールバーか下部ステータスバーから選べます。

- ・OdaLog タイプ I ~IV (接続ポート)

この項目では OdaLog タイプ I ~IV がパソコンとの接続に使用する通信ポートを選べます。(通信ポートに関して詳しくは、お使いのパソコンのマニュアル参照して下さい)

## 6.3 ファイル (Files)

このタブでは OdaStat がファイルを保存する際の、保存場所を設定することができます。

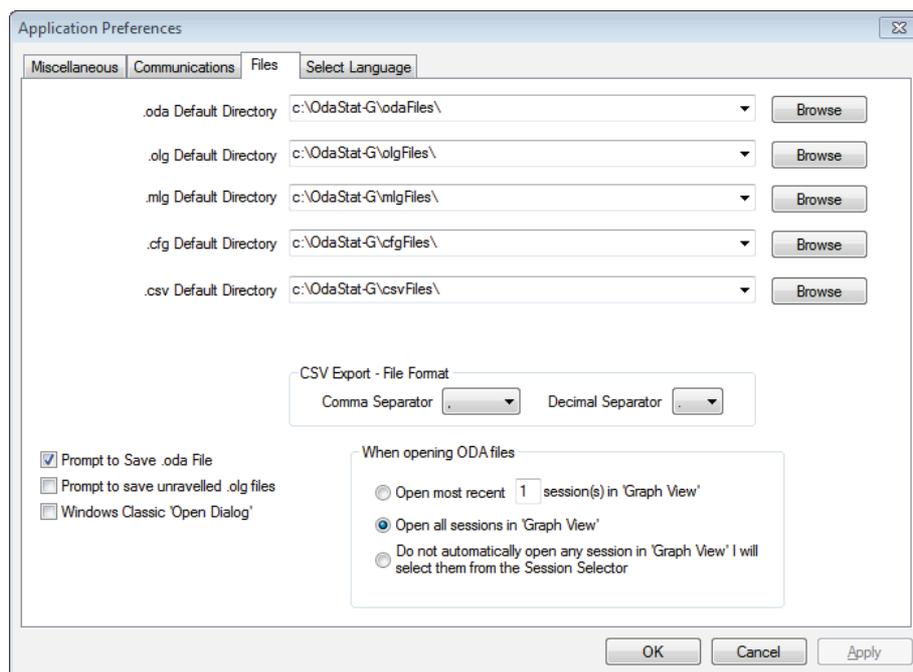


図 60 環境設定 ファイル

ファイル設定はソフトウェア環境設定から行うことができます。この項目では、自動保存されるファイルの保存場所を、ファイルの種類ごとに設定することができます。

### .oda 初期設定フォルダ (Default Directory)

oda ファイルがダウンロードされた後に保存される場所を選択します。またここで選択されたフォルダはセッション選択ダイアログボックスの「デフォルト oda フォルダを開く (Go to default oda directory)」ボタンで開かれるフォルダにもなります。

### .olg 初期設定フォルダ (Default Directory)

セッションファイルがダウンロードされた後に保存される場所を選択します。また、グラフに変更が加えられた際もここに保存されます。またここで選択されたフォルダはセッション選択ダイアログボックスの「デフォルト olg フォルダを開く (Go to default olg directory)」ボタンで開かれるフォルダにもなります。

### .mlg 初期設定フォルダ (Default Directory)

変更を加えたセッションファイルが保存される場所を選択します。またここで選択されたフォルダはセッション選択ダイアログボックスの「デフォルト mlg フォルダを開く (Go to default mlg directory)」ボタンで開かれるフォルダにもなります。

## .csv Default Directory

CSV形式のファイルが保存される場所を選択します。

## 桁数表示の設定 (Separator Preferences)

桁表示に使用される「,」や「.」は国によって異なります。OdaStat-Gソフトウェアはお使いのパソコンのOSから自動的に国設定を行います。CSVファイルを異なる国へ送る場合などは、ここで設定を行ってください。

## .oda ファイルの保存 (Prompt to Save oda Files)

このチェックボックスにチェックを入れると、ファイルのダウンロード後に.odaファイルの保存場所を確認するダイアログが表示されます。もしチェックが付いていない場合は、ソフトウェアが自動的に、設定されている.odaファイル用のフォルダへ保存します。

## 解凍済み .oda ファイルの保存 (Prompt to Save Unravelled oda Files)

このチェックボックスにチェックを入れると、ファイルのダウンロード後に解凍済み.odaファイルの保存場所を確認するダイアログが表示されます。もしチェックが付いていない場合は、ソフトウェアが自動的に、設定されている.odaファイル用のフォルダへ保存します。

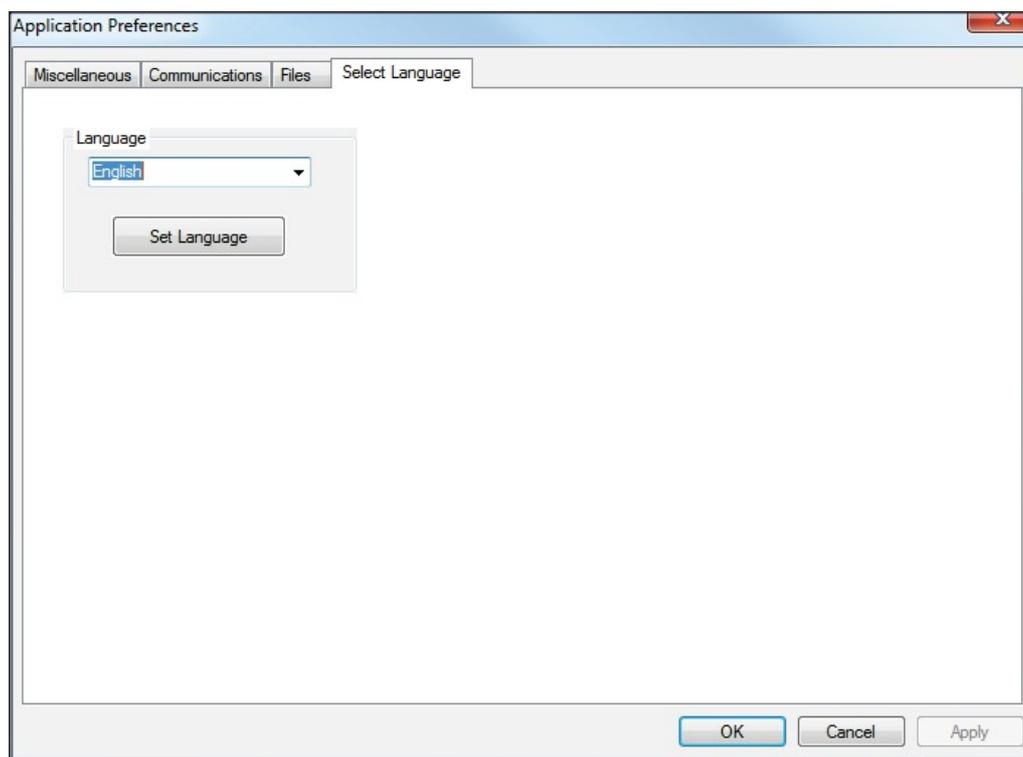


図 61 環境設定 言語設定

## 6.4 言語設定 (Select Language)

言語設定タブでは OdaStat-G ソフトウェア中の表示言語を切り替えることができます。ドロップダウンリストをクリックすると、使用できる言語が表示されます。

注意：使用言語の変更は OdaStat-G ソフトウェアを再起動するまで適用されません。

### 使用可能な言語

- ・ 英語
- ・ 日本語
- ・ ドイツ語
- ・ フランス語
- ・ 韓国語
- ・ 中国語
- ・ スペイン語

ソフトウェアの翻訳に使用しているデータベースは OdaStat-G ソフトウェア (OdaStat-G.exe) と同じフォルダ内に、translation.txt として保存されています。

ここで行われた設定は一度保存され、OdaStat-G ソフトウェアが再起動されたときに適用されます。

## 7 トラブルシューティング 赤外線通信による OdaLog の接続時

以下は OdaLog との接続時に起こりやすいトラブルの一覧です。

- ・ OdaLog の機種を誤って選択している（例：L2 使用時にタイプ I～IV を選択している）



図 62 OdaLog の機種設定

・ OdaStat-G の環境設定で通信ポートを誤って選択している。通信ポートを変更するには、メニューバーの「編集 (Edit)」から「環境設定 (Preferences)」をクリックして下さい。「通信設定 (Communications)」タブを開き、「タイプ I, II, III, IV」のグループの下にある「自動設定 (Auto Detect)」ボタンをクリックして下さい。この際ダイアログボックスが表示されたら、OdaLog は IRDC モードにし、OK ボタンを押して下さい。この作業を行うことで、自動的に正しい通信ポートが選択されます。

・ 正しい赤外線通信装置を使用していることを確認して下さい。タイプ I～IV の OdaLog は IrDA 赤外線アダプターでの通信が出来ません。またノートパソコンに搭載されている IrDA 赤外線装置もタイプ I～IV には使用できません。(L2 には使用できます。) タイプ I～IV との接続には指定の赤外線通信装置を使用して下さい。(シリアルケーブル接続のもの)

・ 複数の赤外線通信装置を同時に使用すると干渉の原因となります。(例：OdaLog 6000 用の IrDA 赤外線アダプターを使用時に、ノートパソコン内の赤外線通信装置も有効になっている) エラーが出る際は干渉している可能性のある赤外線通信機器の信号を直接防いでください。

- ・ USB-LINK-IR でエラーが出る際は以下の手順を参照し、ドライバを再インストールして下さい。

1. USB-LINK-IR をパソコンから取り外して下さい。
2. コントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を開いてください。
3. 「CP210X USB to UART Bridge Controller」があれば削除して下さい。
4. USB-LINK-IR のドライバを説明書を参照して正しくインストールして下さい。ドライバはお使いのパソコンの OS にあったものをインストールして下さい。インストールは CD から行えます (図 1 参照)。
5. 上記の作業を終えても通信に失敗する場合は、パソコンの設定を確認して下さい。パソコンの「デバイスマネージャー」を開き「ポート」の欄を開くと「CP210X USB to UART Bridge Controller (Com xx)」が表示されます。この表示内の (Com xx) の x x 部の数字を OdaStat-G ソフトウェアに設定して下さい。

上記の手順を行っても通信に失敗する場合は App-Tek インターナショナルのテクニカルサポートへお問い合わせください。

(07) 3881 3850

## 8 FTP を使用した OdaLog RTx との接続

OdaStat-G ソフトウェアがFTP サーバへ接続できず、OdaLog RTx からのデータのダウンロードに失敗する場合、Windows の設定を確認してください。設定はWindows のコントロールパネル内の「インターネットオプション」にあります。

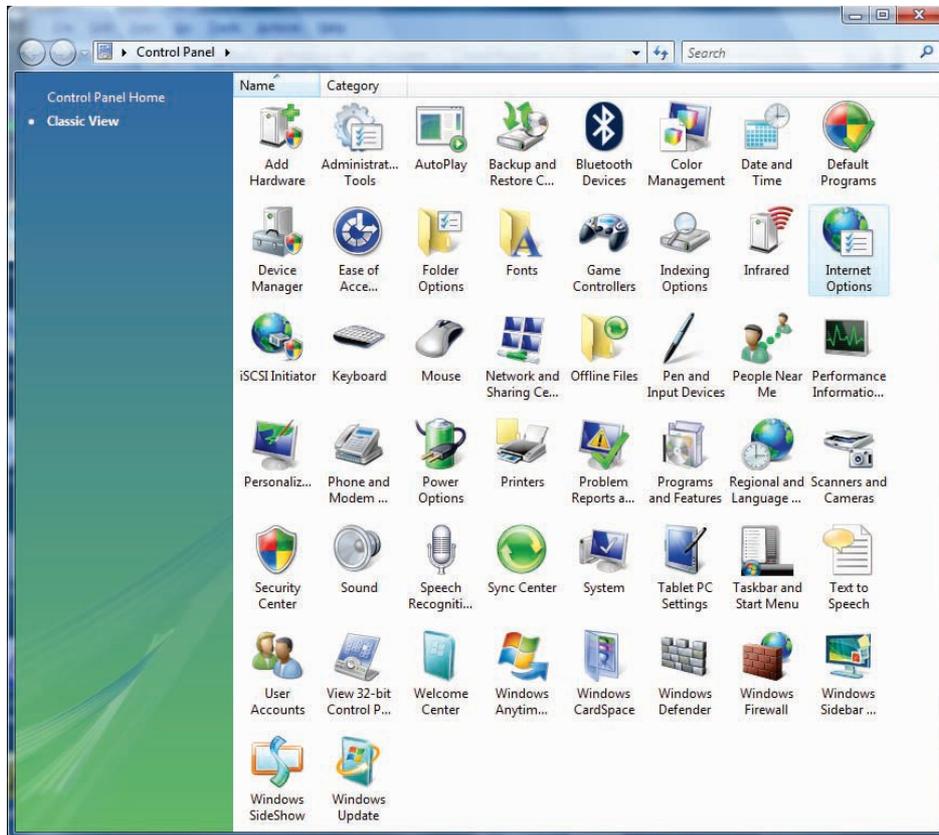


図 63 Windows 7 / Vista のコントロールパネル

インターネットオプションを開くと「インターネットのプロパティ」が開きます。「詳細設定」タブを開き「パッシブFTPを使用する」チェックボックスにチェックを入れて「適用」もしくは「OK」を押してください。

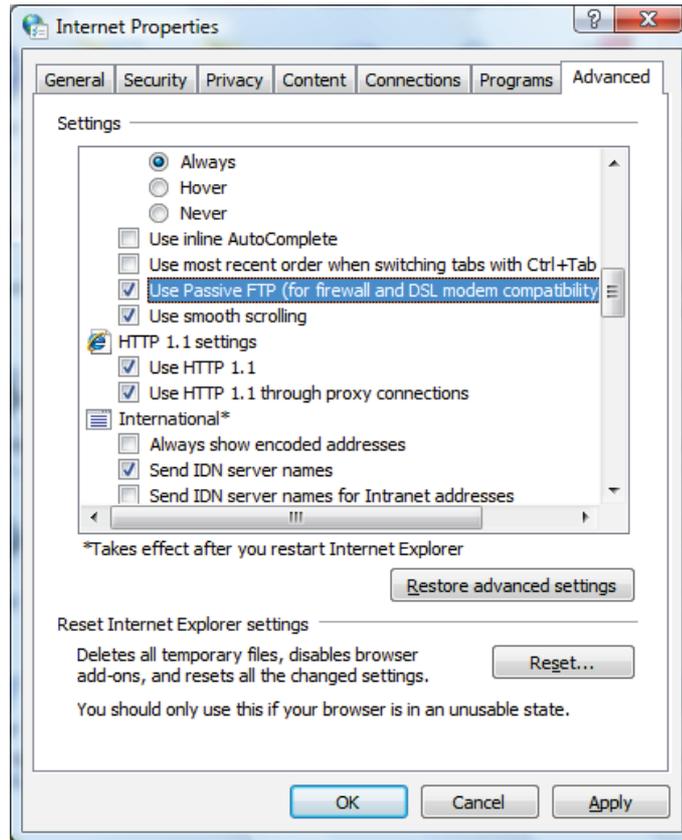


図 64 インターネットのプロパティ

注意：ネットワークの設定を確認/変更する前に技術スタッフへ確認を取ることを推奨いたします。